

令和3年度

# 金沢市埋蔵文化財調査年報

令和4年3月  
(2022年)

金 沢 市  
(金沢市埋蔵文化財センター)

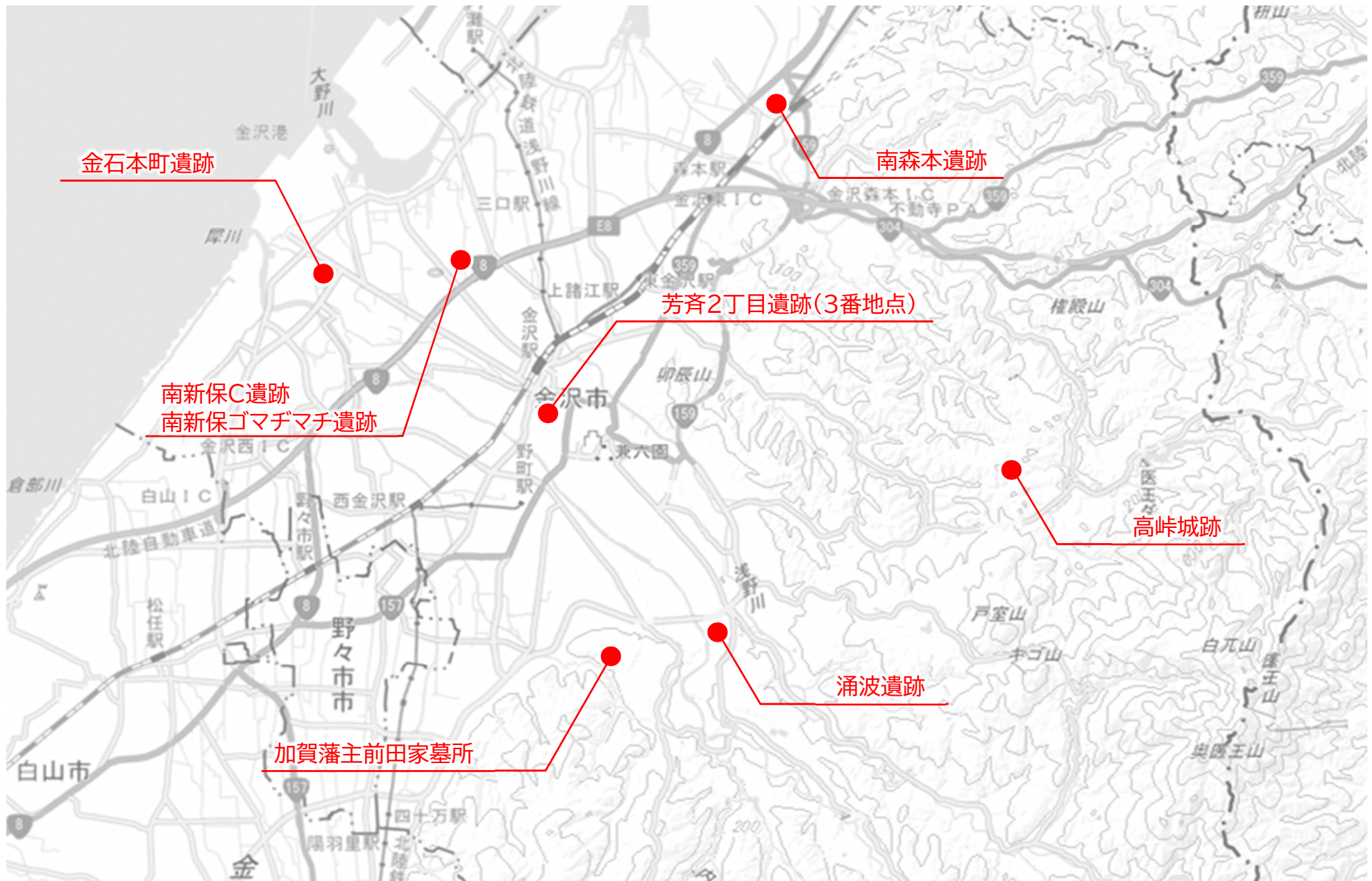
# 1. 埋蔵文化財発掘調査事業等

## (1) 埋蔵文化財発掘調査等一覧

No	調査地	調査面積	調査原因	調査期間	立地	経費(千円)	出土遺物数	時代	主な遺構	主な遺物
<b>緊急発掘調査</b>										
1	<b>芳斉2丁目遺跡(3番地点)</b>									
	金沢市 芳斉2丁目地内	520㎡×2面	学校改築 (公共)	20210325 ～ 20211029	扇状地	30,100	30箱	弥生、近世	土坑、区画溝、井戸	近世陶磁器・土器、金属製品、石製品、木製品、弥生土器
2	<b>金石本町遺跡</b>									
	金沢市 金石本町口地内	73.6㎡	地下油槽設置 (民間)	20210714 ～ 20210806	沖積平野	0 (原因者提供)	2箱	弥生、平安	溝、土坑、ピット	弥生土器、土師器、須恵器、木製品
3	<b>南森本遺跡</b>									
	金沢市 南森本町地内	550㎡	分譲宅地造成 (民間)	20210726 ～ 20211029	河岸段丘	4,478	40箱	弥生～室町	堅穴建物、掘跡、溝、土坑、ピット	弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、漆製品、石製品、金属製品
4	<b>南新保C遺跡【南新保遺跡群】</b>									
	金沢市 南新保町地内	8,100㎡	土地区画整理 (民間)	20210712 ～ 20210330	沖積平野	228,500 (南新保遺跡群の合算)	410箱	弥生～平安	方形周溝墓、堅穴建物、平地式建物、溝、船関連遺構	弥生土器、土師器、須恵器、木製品、石製品、金属製品、動物遺体
5	<b>南新保ゴマチマチ遺跡【南新保遺跡群】</b>									
	金沢市 南新保町地内	6,900㎡	土地区画整理 (民間)	20210819 ～ 202111224	沖積平野	228,500 (南新保遺跡群の合算)	25箱	弥生～室町	中世墓、溝	弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、石製品、木製品
<b>学術調査</b>										
A	<b>高峠城跡</b>									
	金沢市 不室町地内	95㎡	学術調査 (公共)	20210609 ～ 20210716	丘陵	2,737	1箱	安土桃山	礎石、堀、通路	土師器皿、青磁碗
B	<b>涌波遺跡【土清水塩硝蔵跡】</b>									
	金沢市 涌波町地内	135㎡	史跡整備 (公共)	20211110 ～ 20211223	台地	3,191	1箱	江戸	水路跡 土坑	近世陶磁器 近代瓦 金属製品 石製品
C	<b>加賀藩主前田家墓所</b>									
	金沢市 野田町地内	10㎡	史跡整備 (公共)	20220314 ～ 20220329	丘陵	1,809	なし	寛永11年 (1634)	五輪塔基礎構造	—

※出土遺物は容量36リットルのコンテナケースに換算した数量である

## (2)埋蔵文化財発掘調査位置図



## 1. 芳齊 2 丁目遺跡（3 番地点）

〈遺跡番号 新規発見のためなし〉

所在地：金沢市芳齊 2 丁目地内

北緯 36° 33′ 14″

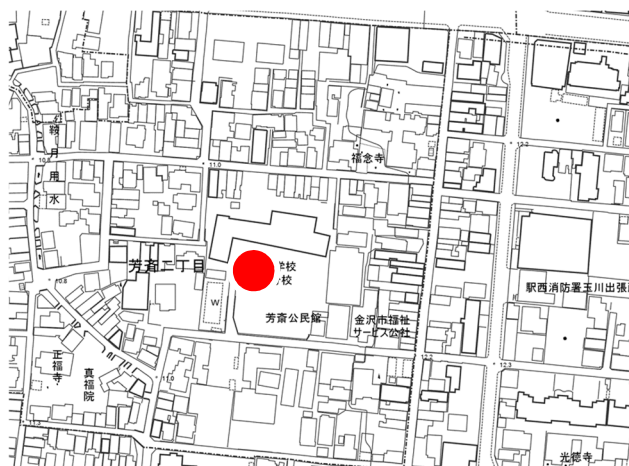
東経 136° 35′ 02″

調査面積：520 m<sup>2</sup> × 2 面

種別：城下町・集落跡

主な時代：弥生時代、江戸時代

担当：庄田 知充



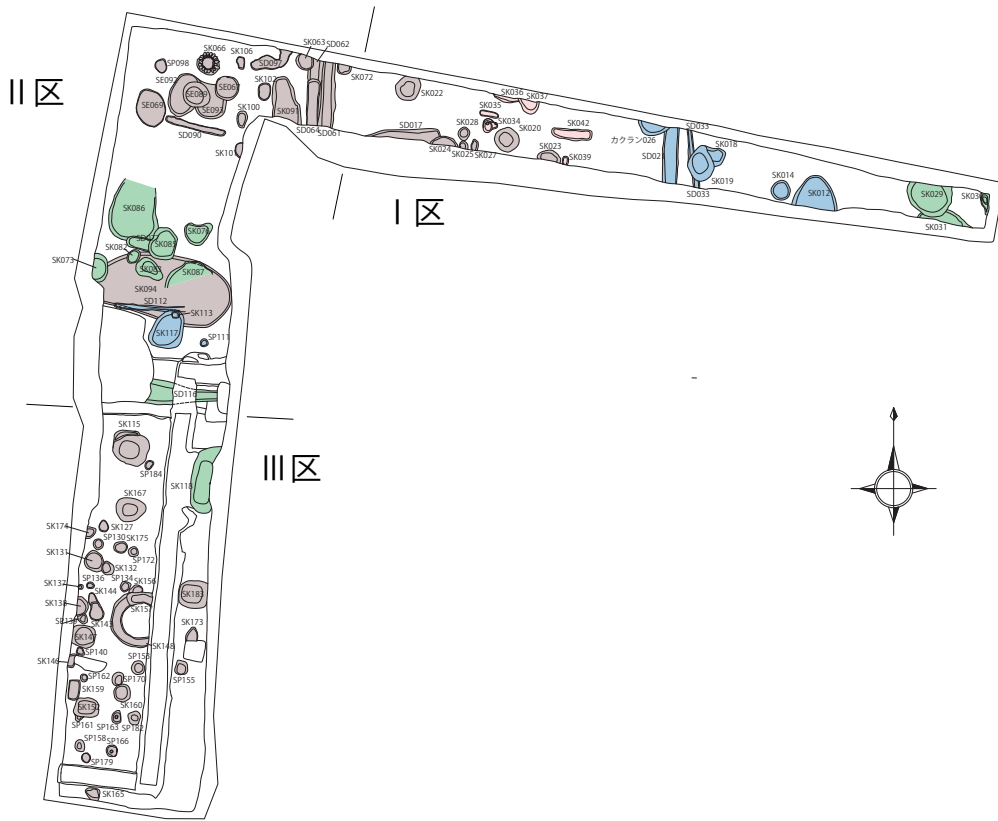
### 遺跡の概要

芳齊 2 丁目遺跡（3 番地点）では、中央小学校芳齊分校校舎新築工事に先立ち、記録保存のための発掘調査を実施した。遺跡の立地環境は、金沢市街地の東西を北流する浅野川と犀川に挟まれた河岸段丘上に位置し、調査完了後の地形は北側で標高 10.40m 南側は標高 10.00m となったことから、旧地形は南側から北側へ緩やかに下る傾斜地であったと考えられる。調査地周辺は、中心市街地北西部の閑静な住宅地となっており、藩政期には武家屋敷の広がる地域だった。寛文七年金沢図（1767 年・石川県立図書館蔵）によると、調査地は北西部が長九郎左エ門下屋敷、北東部が直臣平士の蓑浦五郎左衛門（300 石）、南西部が直臣平士の加藤十左衛門（450 石）の屋敷地だったと考えられる。また、年代が異なるものの、金沢市立玉川図書館が所蔵する天保二年（1831 年）の『長家御屋敷并御家中御絵図図籍并図引用具』中の『巻ノ二 図籍下』には、「北御家中」として長家下屋敷内の居住者名が記されており、調査区周辺では萱津吉左衛門、鳥島万作、石寺佐七の名を見ることができる。

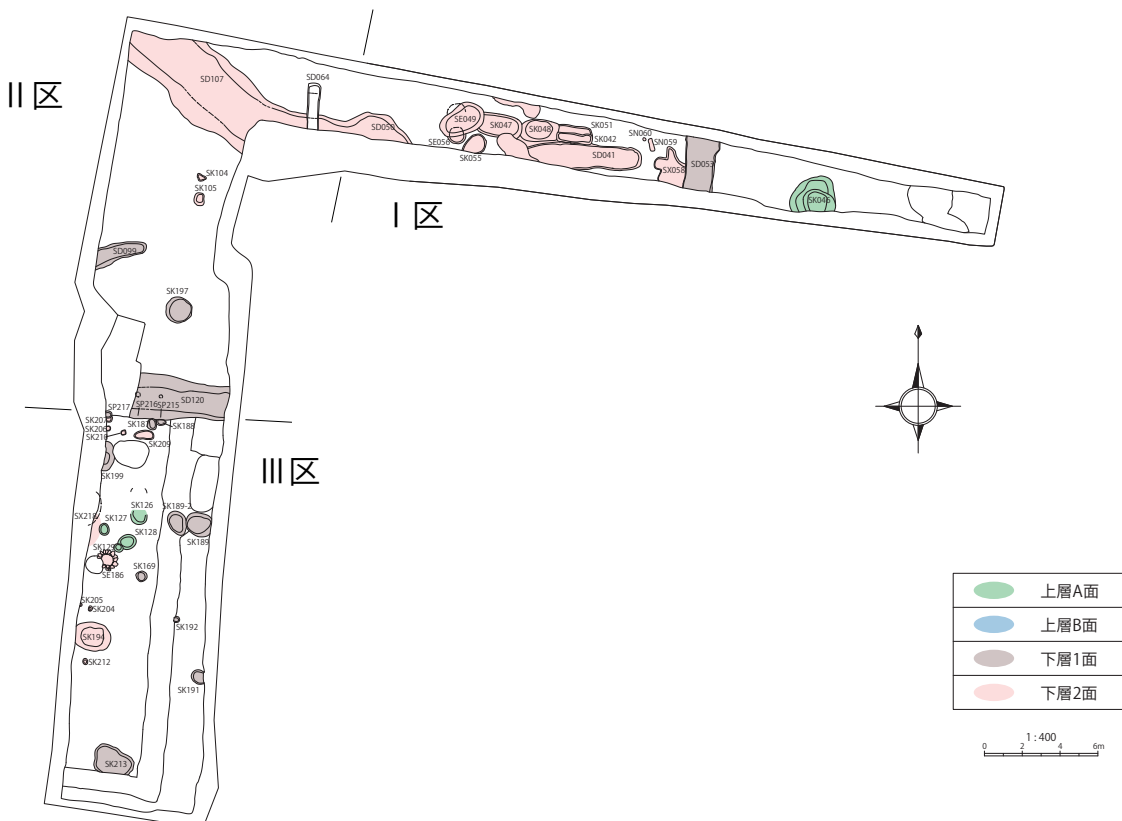
発掘調査は新校舎の形状に従い既存の旧校舎およびプールに沿う L 字の形状で実施した。主な遺構として上層面では溝状遺構 5 条、土坑 30 基、下層面では堀跡 1 条、溝状遺構 9 条、井戸 6 基、石組室 2 基、土坑 63 基、ピット 21 基、自然流路 2 条が検出され、下層においては弥生時代後期～終末期の弥生土器を含む包含層や落ち込み、土坑、溝も確認された。

調査区北西部では東西方向に走る幅約 2.3m、深さ約 1.4m の溝 (SD120) が検出された。この場所には、『寛文七年金沢図』において長九郎左エ門下屋敷地と加藤十左衛門屋敷地とを境界する水路をあらわす水色に着色された描写がみられることから、SD120 はこの南北屋敷境の区画溝（堀跡）と考えられる。SD170 は 17 世紀末～18 世紀初め頃、平坦に埋め戻されその南岸側（加藤十左衛門屋敷地側）には東西方向に並ぶ柱穴列が掘削されている。区画溝（堀）廃絶後、屋敷境が直臣屋敷側の旧堀肩部に再設定され、柵または掘立柱で支えられた板塀で区画されるようになったと考えられる。長九郎左エ門下屋敷地と蓑浦五郎左衛門屋敷地の東西境界線付近では南北方向の溝 (SD061) および溝に併行する溝状遺構 (SD062・SD064) が検出されている。SD062・SD064 は遺構底面に柱根および柱の根石の可能性のある小石が検出されており布掘の堀跡の可能性はある。

調査地内ではこのほか、桶組井戸や埋め桶、円形石組の室、建物礎石および礎石建物の根石、掘立柱建物柱穴、廃棄土坑等を確認した。出土品は主に 17 世紀後半代以降の近世陶磁器・土器を中心とするが、表面に金箔を貼り付けた土師器皿等、17 世紀前半世紀代の出土品もみられる。また、下層においては弥生～中世の遺物も出土している。



芳齊2丁目遺跡（3番地点）1回目測量遺構配置図



芳齊2丁目遺跡（3番地点）2回目測量遺構配置図



I区 上層全景（東から）



II区 下層全景（東から）



II区 埋桶 SK070 (東から)



I区 廃棄土坑 SK019 遺物出土状況 (西から)



III区 東西方向区画溝 SD120 (西から)



II区 区画溝 SD061、布掘建物 SD062・SD064 (南から)



III区 建物礎石 SK131・礎石根石 SK132 (東から)



III区 塀跡柱根 SP216 出土状況 (東から)



II区 下層金箔かわらけ出土状況 (南から)



II区 溝 SD107 弥生土器出土状況 (北から) (2)



Ⅲ区 下層全景（南から）



Ⅰ区 桶組井戸 SE056（北から）



Ⅱ区 桶組井戸 SE067・SE093（南から）

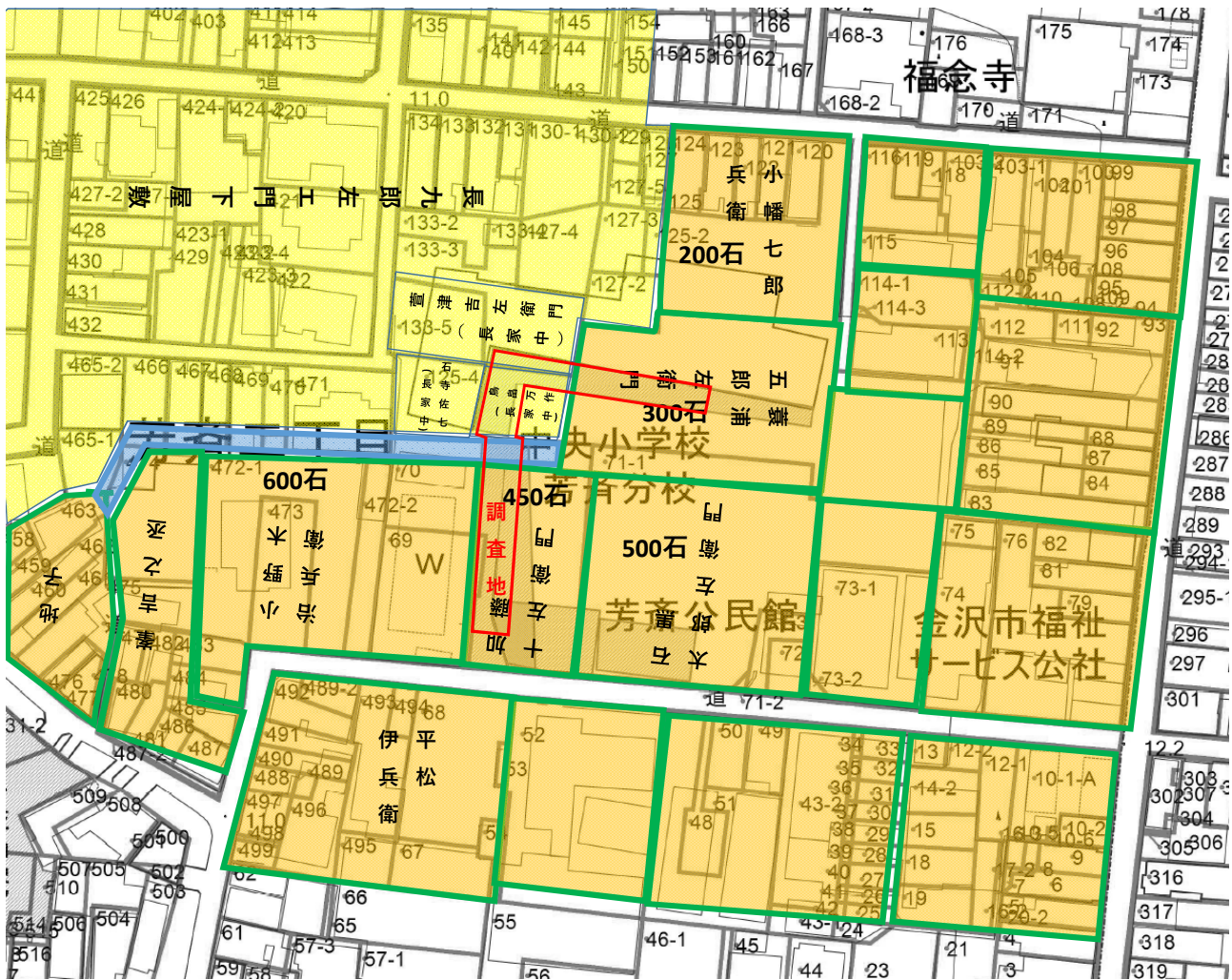


Ⅱ区 円形石組室 SX066（東から）



Ⅲ区 円形石組室 SX186（西から）





直臣屋敷(緑枠橙塗り)は『寛文七年金沢図 (1767年・石川県立図書館蔵)』

長家下屋敷(青枠黄色塗り)は天保二年の天保二年 (1831年) の『長家御屋敷并御家中御絵図図籍并図引用具』中の『巻ノ二 図籍下』を参考に推定した

### 芳齋2丁目遺跡(3番地点)付近の地番図・絵図重ね図

## 2. 金石本町遺跡

〈遺跡番号 県：137100 市：026〉

所在地：金沢市金石本町口地内

北緯 36° 59′ 57″

東経 136° 60′ 02″

調査面積：73.6 m<sup>2</sup>

種別：集落跡

主な時代：弥生時代、古墳時代

担当：前田 雪恵



### 遺跡の概要

金石本町遺跡の発掘調査は、西日本電信電話株式会社北陸支店敷地内の地下油槽埋設工事に先立ち実施した。調査地周辺は金石往還（主要地方道金沢港線）と主要地方道松任宇ノ気線の交差する付近に展開する住宅地・商業地で、金沢市の北西部郊外にあたり、周囲には犀川とその支流である大小の河川が西に流れ、河川の間は帯状の微高地となっている。

金石本町遺跡は、弥生時代中期から近世まで続く複合遺跡である。金石本町から金石東1・3丁目にかけて、南北約350m、東西約510mの範囲に広がっている。昭和30年前後の木曳川の改修の際に発見され、これまで9次での掘調査が行われており、今回が第10次の発掘調査となる。特に飛鳥時代に始まり、平安時代の8世紀に最盛期を迎え、平安時代前期の10世紀にいったん途絶えるまでの約400年間、越前国加賀郡（823年に越前国から加賀国が分離してからは加賀国石川郡）の港を管理する官衙的な性格を有していたことで知られている。過去の発掘調査では約300点の墨書土器や4点の木簡を含む大量の遺物と、律令に定められた祭祀行為の痕跡、桁行19m面積145 m<sup>2</sup>に及ぶ大型の建物、倉庫群などの遺構が検出されている。

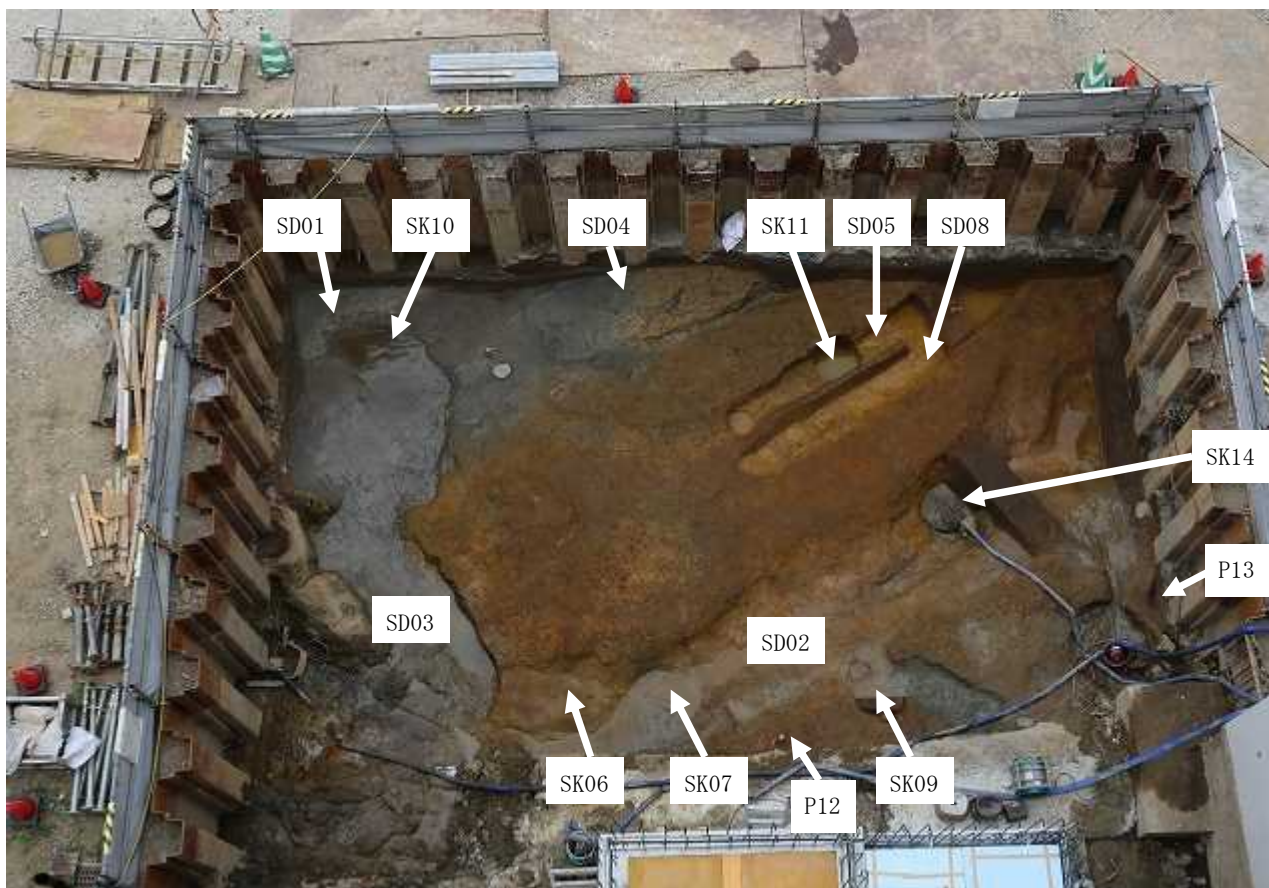
今回の調査では、地表から1.6m下までが現代の盛り土、その下に弥生時代から江戸時代の土器片を多く含む厚さ0.2mの自然堆積土、その下に弥生時代から平安時代の土器片を少量含む厚さ0.1mの自然堆積土、の順に堆積が確認され、その下で遺構が検出された。遺構検出面は地表から約1.9～2.0m下に現れる灰色から緑灰色を呈する粘質土で、常に地下水がしみ出すかなり軟弱な地盤である。

調査では溝（SD）6条、土坑（SK）6基、ピット（P）2基の遺構が検出された。SD02は幅1.8m、深さ0.3mを測り、緩い弧を描いて西から東へ流れ、調査区の東端でSD03と合流する。両岸はなだらかなテラス状になっており、流れの緩やかな溝であったと考えられる。上下2層の堆積土があり、下層からは古墳時代初期に使われた土器の破片が多く出土した。その中に1点、高さ約7cmの完形の甕<sup>かめ</sup>があり、外面に煤の付着があつて火にかけた事は明らかであるが、サイズからみて日用品ではなく祭祀用であると考えられる。SD03は幅1.2m、深さ0.25mを測り、きつく湾曲しながら南から北へ流れる。SD02に接続しているがSD02と異なり両岸は急傾斜となっていて、SD02と同時期の土器が出土している。SD02とSD05の底面には穴状に深くなっているところがあり、土坑とした。SK07は径0.5mの円形を呈し、深さはごく浅く、甕や壺の蓋の破片が集中して出土した。SK14は長軸0.9mの楕円形を呈し、深さ0.4mを測る。甕や高杯の破片が出土した。2基のピットはいずれも直径0.5m、深さ0.15mのごく浅い皿状である。

調査区がごく狭いので確実なことは言えないが、今回の調査で検出されたほとんどの遺構から古墳時代前期の土器が出土している。それらはSD02から出土した完形の甕1点を除いて日常に使用する

調理具や食器の破片であることから、溝や土坑に不用品が廃棄されたものと思われる。そして、日用品を廃棄した溝が集中する本調査区は、集落の縁辺の一部であると考えられる。主要地方道松任宇ノ気線の築造前に行った同遺跡の発掘調査では同時期の土坑や溝、建物跡が検出されているため、集落の中心はそちらにあると思われる。

今回の調査により古墳時代の集落が従来知られていたより西に広がること、逆に奈良・平安時代の官衙はこの調査区までは広がっていないことが確認された。



調査区全景 (左下が北)



SD02下層 小型甕出土状況



SD02下層 小型甕出土状況

### 3. 南森本遺跡

〈遺跡番号 県：159600 市：一〉

所在地：金沢市南森本町ル地内

北緯 36° 37′ 13″

東経 136° 41′ 47″

調査面積：550 m<sup>2</sup>

種別：集落跡

主な時代：弥生、古墳、室町

担当：鏡 百恵



#### ■遺跡の概要

##### 〈位置とこれまでの調査について〉

南森本遺跡は、金沢市の北東部に位置し、北側には森下川が北西方向に流れ、河北潟を経て日本海へ至る。また、西側には旧北国街道が南北に伸びているが、東側の砺波丘陵との境付近では古代北陸道が見つかっており、古代以来の水陸交通の要衝に位置していると言える。南森本遺跡は平成26年度に金沢市埋蔵文化財センターにより、今回の調査区の南側が調査されている。その調査では、主に平安時代、鎌倉時代、室町時代の井戸や溝、土坑、柱穴などが見つかっている。

##### 〈南森本遺跡の調査成果〉

今回の発掘調査では、弥生時代～古墳時代の溝、竪穴式建物、掘立柱建物、古代の溝、中世の堀、溝、土坑、小穴等がみつかり、弥生土器、土師器皿、陶器、青磁、白磁、木製品、漆製品、石製品、古銭などが出土した。

##### 中世の堀を検出 (写真1)

調査区中央に南北方向に延びる堀 (SD10 旧・新) が検出された。堀底からは完形の土師器皿が大量に出土しており、宗教的な遺物がほとんど見つからないことから、館を取り囲む堀である可能性が高いと考えられる。土の堆積状況を観察したところ、新旧2つの時期があることが明らかになった。推定幅約4～5m、深さ約1.4mの堀を造り、それが埋まった、あるいは人の手で埋め立てた後、旧堀からは南側に3mほどずらして幅約7～8m、深さ約1.4mの新たな堀を造っている。堀の形状は新旧どちらも断面逆台形状の箱堀である。旧堀は15世紀前葉頃、新堀は15世紀後半頃には堀としての機能を終えていると考えられる。

##### 大量の土師器皿が出土 (写真2、写真3)

新堀 (SD10 新) では、数百枚という大量の土師器皿がまとまって出土した。土師器皿は、堀底から30cm程の間に密に堆積した状態で、漆器碗や曲物 (まげもの) の底板、篋、板材も出土している。この大量の土師器皿は15世紀中頃～後半のもので、そのほとんどが完全な形のものであった。儀式や饗宴などにおいて酒杯や皿として大人数で大量に使用し、廃棄したものと考えられる。あるいは、儀式や饗宴などのためにストックしていたものを、火事などの何らかの出来事が原因で、一括して廃棄したとも考えられる。いずれにしても、非日常的な儀式や饗宴を大規模に催すことができるような有力者の存在が想定される。

##### 小型曲物の出土 (写真4、写真5)

新堀の堀底からは、口径4.5cmほどの小型の曲物容器が出土している。このような小型の曲物製品

は中世の城下町や城館で出土があり、海鼠腸(このわた)を入れる容器と考えられている。海鼠腸はナマコの腸を塩辛にしたもので、現在でも珍味として食されるが、古くは平安時代から能登国の産物として史料に見られる。

福井県一乗谷朝倉氏遺跡<sup>いちじょうだにあさくらし</sup>では300点もの小型曲物の容器と蓋が出土しており、年号が墨書された付札<sup>つぎ</sup>3点も一緒に出土した。付札の中には永禄10年(1567年)と記されたものがあり、この年の12月25日と翌年の5月17日に、足利義昭の御成に際して、朝倉義景<sup>あさくらよしかげ</sup>は盛大な饗宴を催していることがわかっている。このことから、ナマコの珍味が中世の武士達の酒宴において、重要な献立であったと考えられている(垣内光次郎 木越祐馨(2012)「能登のナマコ生産と食用文化史の研究」『金沢大学考古学紀要』33 63-82頁)。

南森本遺跡で現在確認している小型曲物の容器は1点だけであるが、底板と思われる直径4.5cmの円盤状の板も多数出土していて、海鼠腸を多数所持していたことが考えられる。小型桶の出土は、この地で盛大な宴会が行われたこと、それ相応の力を持つ者が館の主であったことを、より一層裏付けるのではないかと考える。

### 西側に南北溝と杭列(写真7)

当初、新堀は調査区西側まで延長すると思っていたが、西側では新堀とは異なる南北方向の溝(SD29)と2箇所<sup>2</sup>の杭列が見つかった。周囲の溝が埋まった後、あるいは埋めた後に、この南北溝を掘削した様子を観察できることから、2箇所<sup>2</sup>の木杭は南北溝に伴う土留めであると考えられる。

この南北溝は遺物の出土が少ないため時期は不明であるが、すぐ西側の溝(SD30)からは、新堀よりも古い15世紀前半の土師器皿が大量に出土している。また、南北溝の東側の溝(SD32、SD28)は新堀とは異なる堆積状況を示しており、新堀の延長部分であるとは言い難い状況であった。土留めを行う南北溝が、新堀と直交する南北方向の堀であるかどうかは不明であるが、新堀と同様に大量の土師器皿が時期の異なる溝から出土することから、館の主の性格が変わらない中で、時期的な変遷があることがわかった。

### 調査成果から考えられること

今回の発掘調査で大量の土師器皿が出土する中世の堀が見つかった。このことから、この南森本の地に15世紀には有力者の館が存在していたと推測される。

調査地から250m北西方向には、森本の有力者亀田氏の館跡が現在もその姿を一部残している。

亀田氏は、美濃国守護土岐頼遠<sup>みののこくしゆごと きよりとお</sup>を祖とし、明応年中(1492~1501年)には森本地区に居住していたとされている。初代頼周<sup>よりちか</sup>は一向一揆方の武将として、織田信長家臣の柴田勝家<sup>しばたかついね</sup>に対抗し、五代良周<sup>よしちか</sup>以降、代々加賀藩十村役を勤めるなど、森本地区が所在する河北郡域の歴史を物語る有力者である。今回の調査地周辺に「ハヤト」の地名があり、亀田氏初代頼周の子三郎隼人<sup>さぶろうはやと</sup>の館跡を指すと口伝されている。

今回の調査で見つかった堀は館に付随するものと考えられるので、伝承にある館の存在を裏付ける可能性が高いと思われる。しかし、今回見つかった堀の時期は、伝承にある三郎隼人が活躍した16世紀末から17世紀初頭頃からは100年ほど遡るものであった。ただし、亀田氏は14世紀後半頃から森本周辺で居住していたという伝承もあり、亀田氏一族などの有力者の館跡が初めて見つかったといえる。



写真1 旧堀・新堀 断面



写真2 土師器皿出土状況（遠景）



写真3 土師器皿出土状況（近景）



写真4 新堀出土 小型桶



写真5 新堀 小型桶出土状況



写真6 室町時代小穴（P09） 土師器皿出土状況



写真7 南北溝（SD29） 杭列検出状況



写真8 旧堀・新堀

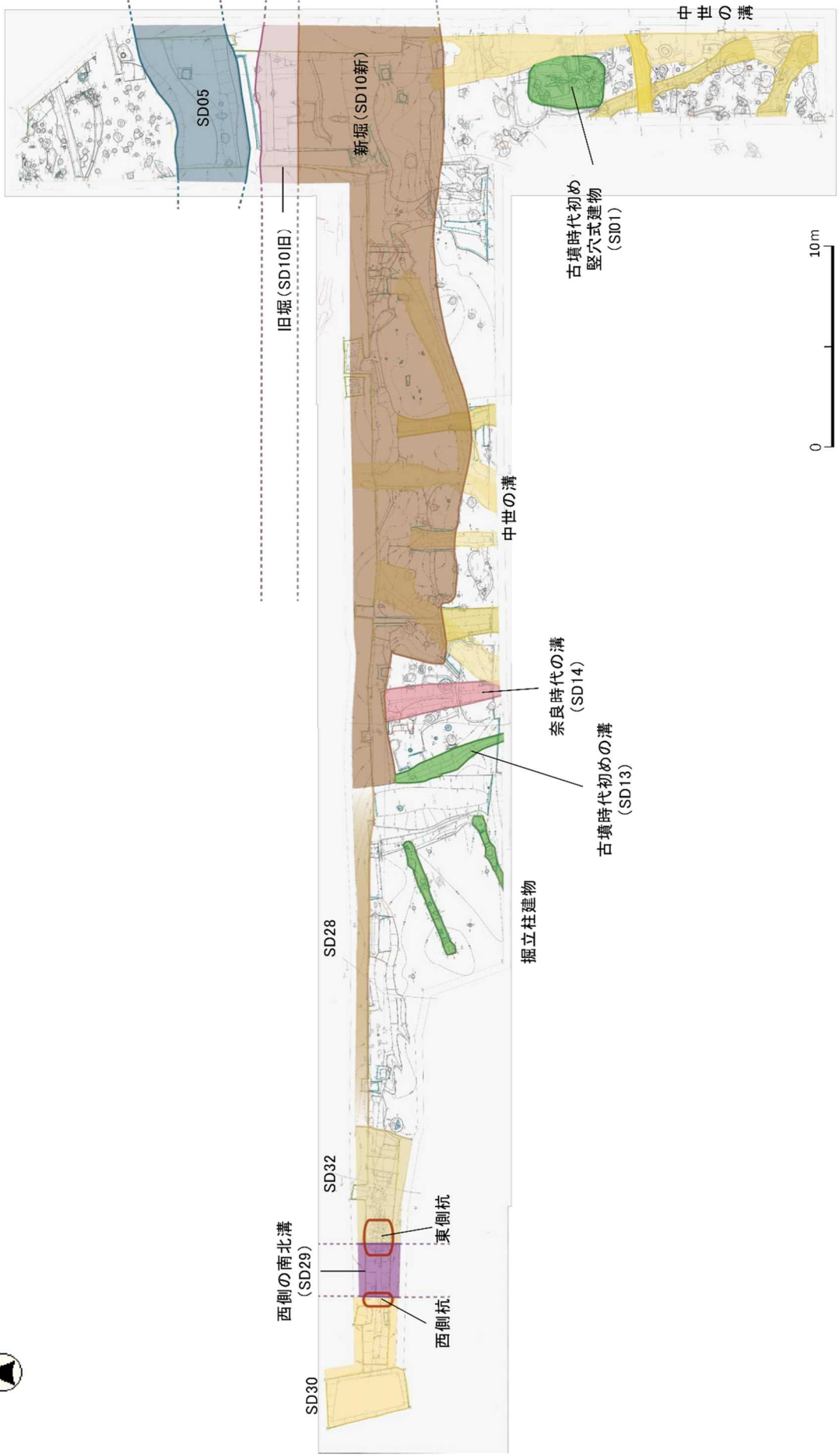


図2 遺溝全体図

## 4. 南新保C遺跡

〈遺跡番号 県：1290 市：149K〉

所在地：金沢市南新保地内

北緯 36° 35′ 53″

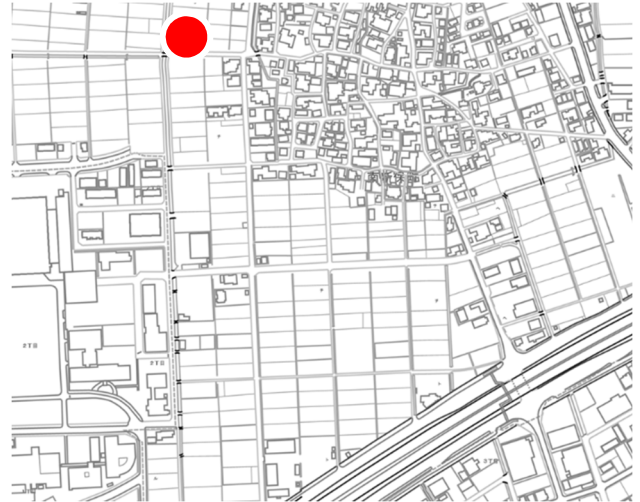
東経 136° 37′ 53″

調査面積：8,100 m<sup>2</sup>

種別：集落跡

主な時代：弥生、古墳、平安

担当：向井 裕知、鏡 百恵



### ■遺跡の概要

#### 〈南新保遺跡群について〉

南新保遺跡群は、金沢市南新保土地区画整理事業に伴い令和2年度～令和10年度（予定）の発掘調査が計画されている。2年目となる今年度の調査では、南新保C遺跡、南新保ゴマヂマチ遺跡の2遺跡の調査を行った。

南新保C遺跡、南新保ゴマヂマチ遺跡は金沢平野北部、犀川と浅野川に挟まれた金沢港まで約2kmの臨海部に位置する。かつては沼が広がり、小川が網目状に流れるような低湿地の中の微高地というような立地環境であったと考えられる。周辺には、南新保A、B、E、D、三枚田遺跡のほか、弥生時代の大集落である西念・南新保遺跡等が所在する。過去には、南新保C遺跡は平成8、9年度に県埋蔵文化財センターにより、令和2年度に金沢市により調査されている。南新保ゴマヂマチ遺跡は、平成30年10月の試掘調査により、新たに見つかった。

#### 〈南新保C遺跡の調査成果〉

##### 【弥生時代～古墳時代】

南新保C遺跡は、調査区を5～8区とし、調査を行った。弥生時代中期から古墳時代前期の遺構としては、方形周溝墓、竪穴式建物、平地式建物、川跡、溝、土坑などが検出された。

##### 川跡

5区から7区にかけて、北から南西方向へと円弧状に延びる大規模な川跡（SD702）が見つかった。幅は最大で約10m、深さは最大深度で3.8～4.2mを計り、弥生時代中期～古墳時代前期の遺物が出土している。この川跡（SD702）からはテンバコ約160箱分以上の大量の遺物が出土しており、丁寧につくり込まれた土器や豊富な種類の木製品の他、石製品、鉄製品が良好な遺存状態で出土している。木製品では、鋤や鍬、斧柄、竪杵、櫓、網杵など、当時の生活の様子を知ることができる道具類の出土がある。また、堆積層中には貝層がみられ、ヤマトシジミを主体として、アカニシなどの他の貝類、魚骨や魚鱗、モモなどの樹木の種、動物骨等が含まれていた。貝層は遺跡の環境や生業を復元できる貴重な資料であり、今後整理・分析作業を進めていく。

##### 住居跡

この川跡（SD702）の両岸では、多数の住居や土坑、小穴が重複して見つかっており、複数の時期にわたって人々の生活が営まれている。

平地式建物は、5区で3棟、6区で1棟が見つまっている。特に6区で見つかったSI6001は、SP6160・SP6162・SP6163・SP6169・SP6170が柱穴となる5本柱の竪穴式建物跡であると考えられる。また、こ



の竪穴式住居跡の外側を巡る SD6010 が検出されこれもこの竪穴式住居跡に伴うものとする。「周溝をもつ住居跡」については、岡本氏により、1 次分類として広溝式竪穴住居、狭溝式竪穴住居、広溝式平地住居、狭溝式平地住居、さらに 2 次分類として土坑型、開口型、圍繞型、馬蹄型、共有型に分類されている。SI6001 は幅広の周溝 (SD6010) を伴う竪穴式建物であるため、広溝式竪穴住居に分類できると考えられる。2 次分類である周溝の型式については、溝の全容を検出できなかったため、不明である。また、柱穴を航空測量後に立ち割ったところ、SP6062、SP6063 は柱根が残存していた。

また、6 区については、近世以降の川跡に大部分を破壊されており、調査当時は認識することができなかったが、SD6036、SD6050、SD6082、SD6083 も大きく円形に回る様子がみられ、平地式建物の周溝である可能性がある。

竪穴式建物は、5 区で 7 棟、6 区で 1 棟が見つかった。

SI701、SI703、SI704、SB704、SB705 などの住居跡からは、管玉やその未製品、緑色凝灰岩の原石が多数出土しており、付近の川跡 (SD702) からは管玉を製作する際に使用する砥石が出土しています。令和 2 年度の調査でも玉造りの工房と考えられる SI403 が見つかり、この遺跡で玉造りが行われていたと考えられる。

### 方形周溝墓

方形周溝墓は 5 区で 2 棟見つかった。SZ701 は周溝が全周するタイプのもので、周溝からは弥生時代終末期の土器が出土しており、中には赤彩が施されたものもある。墳丘部分は後世の削平により残っていないが、周溝内に複数の土坑が存在しており、周溝内埋葬の可能性もある。SZ702 は周溝の四隅が切れるタイプである。墳丘部は削平され残っていないが、中央部に極浅の土坑が検出され、土坑内の小穴 (P1420) からはガラス玉が 10 数個出土している。これらが、主体部にあたるかどうかは不明である。

### 集落の範囲について

令和 2 年度調査の 1 区～3 区、今年度調査の 5 区は遺構密度がかなり高く、住居跡や墳墓が重複した状態で多数みられた。一方で、令和 2 年度調査の 4 区、今年度調査の 6 区、7 区については遺構密度が低く、特に西側に向かって更に遺構数は減少する。6 区、7 区が弥生時代から古墳時代にかけて営まれた集落西側の縁辺部にあたるのではないかと考える。集落範囲の変遷については、出土遺物の整理を踏まえた検討が必要である。



5 区 SD702 断面 (北から)



5 区 SD702 No.17 土器出土状況 (北東から)



5区 SD702 No.137 木製品出土状況 (西から)



5区 SI701 No.155 管玉出土状況 (北から)



5区 SZ701 No.178 土器出土状況 (北から)



5区 P1420 No.206 ガラス玉出土状況 (南から)



6区 SI6001・SD6010 完掘全景 (南から)



6区 SP6063 断面 (南から)



7区 P7001 遺物出土 (西から)



8区 SD8002 遺物出土 (南から)

## 【平安時代】

平安時代の遺構としては船関連遺構が検出され、船材が出土した。

### 船関連遺構

令和2年度調査の1区からの延長と想定される川もしくは水路跡(SD715)の北西岸際に沿って検出された船材と考えられる長大な板材を用いた施設(SX707)である。水路底の標高は2.5m前後で、水路幅10m前後、遺構検出面からの深さは50cm程であるが(現地表面はある程度削られていると考えられるため、当時はもう少し深いと考えられる)、砂粒を伴っていることから、一定度の水の流れがあったものと考えられます。

遺構周辺はすり鉢状の凹みのような地形が確認できる。令和2年度調査区との間が現用水路と管理通路によって調査できていないが、写真①で示したように、川の蛇行点もしくは入江状に内陸部に入り込んだ箇所にはSX707は設置されたものと考えられる。

当地より下流に向かって約900mの大友E遺跡でも用水沿いに9世紀代の川跡が検出されており、現用水付近に古来より流路が集中している可能性が考えられることから、用水箇所に流路が存在したものと考えられる。

本遺構の主体は、長さ約6.1mの板材ですが、その下部に4ヶ所の土台となる横方向の材を敷き、周囲には杭を打ち込むなど、板材の沈下や前後左右の動きを防止しており、当該箇所が水際であったことが推察される。

この板材が船を固定したものであれば、船の修理などを行っていた施設が想定され、周辺の木材で船材が多数確認できれば、その可能性は高くなると考えられる。ただし、現状では船を構成する材の一部しか確認できないことから、船としての機能は失われ、単なる板材として足場や土台としてに使用された可能性も考えられる。この場合は荷揚げなどを行った船着場などが推定される。

また、板材の周囲には杭や板材が乱立して設置してあり、棒状や板状以外の加工材も見られるが、地盤強化や船を係留するための用途などが想定できる。ただし、一部の杭については、南東―北西方向のラインに設置されたような箇所があり、接岸用の船固定材などの用途が考えられる。

遺構の年代は、出土した遺物から9世紀代と考えられる。特徴的なものとしては、「敷波」、「敷」、「大市」、「寺」、「中」、「泉」、「下居」、「川迪」などの墨書土器が出土しており、本遺跡の性格を示す可能性がある。

### 舟材

長さ約6.1m、厚さ6~8cm程度の板材で、複数に分割しているが、年輪や出土状況から同一材の可能性が高く、全体的にやや湾曲している。割れの箇所は、<sup>かすがい</sup>銚を用いて補強しており、5ヶ所に認められる。

北西側の端部は、表面調整した加工痕が確認できることから、当時の状況を保っており、ほぼ等間隔の方形の貫通穴が5ヶ所、やや離れて1ヶ所認められます。この貫通穴には別材が残されているものがあるため、新たに作られたものではなく、使用途中もしくは使用後の可能性が高いといえる。貫通穴には端部側に<sup>げんそくぼん</sup>摩擦痕が認められることから<sup>じゆんこうぞうせん</sup>舷側板を固定していた痕跡と考えられ、<sup>じゆんこうぞうせん</sup>準構造船であった可能性が考えられる。(写真②右下図参照)。

板材の両端部には複数ヶ所の方形の凹みが認められ、船首や船尾材との接合に使用された痕跡の可能性はあるが、使用法などはわかっていない。

また中央にも別材が入っているとみられる穴が1ヶ所認められる。

板材の周辺には、端部を厚く残し、その他を端部より薄く加工した略U字状の木材や丸太材の端部を突起状に加工した材など、通常のものとは異なる材が多数認められ、船材が残されている可能性があります。

他遺跡の事例として、井戸枠に転用されて出土した金沢市大友西遺跡（9世紀）や小松市白江梯川遺跡（平安後期）、同佐々木遺跡（10世紀前～中）、同額見町遺跡（9世紀前半）がある。これらは、いずれも井戸枠に必要な長さに切断されており、また木材端部の穴などは、井戸枠材としての加工の可能性があることから、船としての機能に結び付けることが難しい場合がある。

#### 船関連遺構及び船材出土からわかること

①船材と考えられる長大な木材を用いた平安時代前期の水辺の施設が発掘され、船管理施設もしくは船着場の可能性が考えられる。他の木材も船材と確認できれば、船管理施設としての可能性が高くなり、また作業用や荷揚げ場としての大規模な板材を用いた船着場としても類を見ない事例である。これは、船が管理や係留、荷揚げされた施設としての実態を示しており、古代船舶史や流通史において重要な遺構といえる。

②平安時代前期の大規模な推定船材が発見された。これまで不明な点が多かった平安時代前期の船構造を考える上で重要な事例といえる。



板材出土状況（北より）



加工木材（略U字状）出土状況（東より）



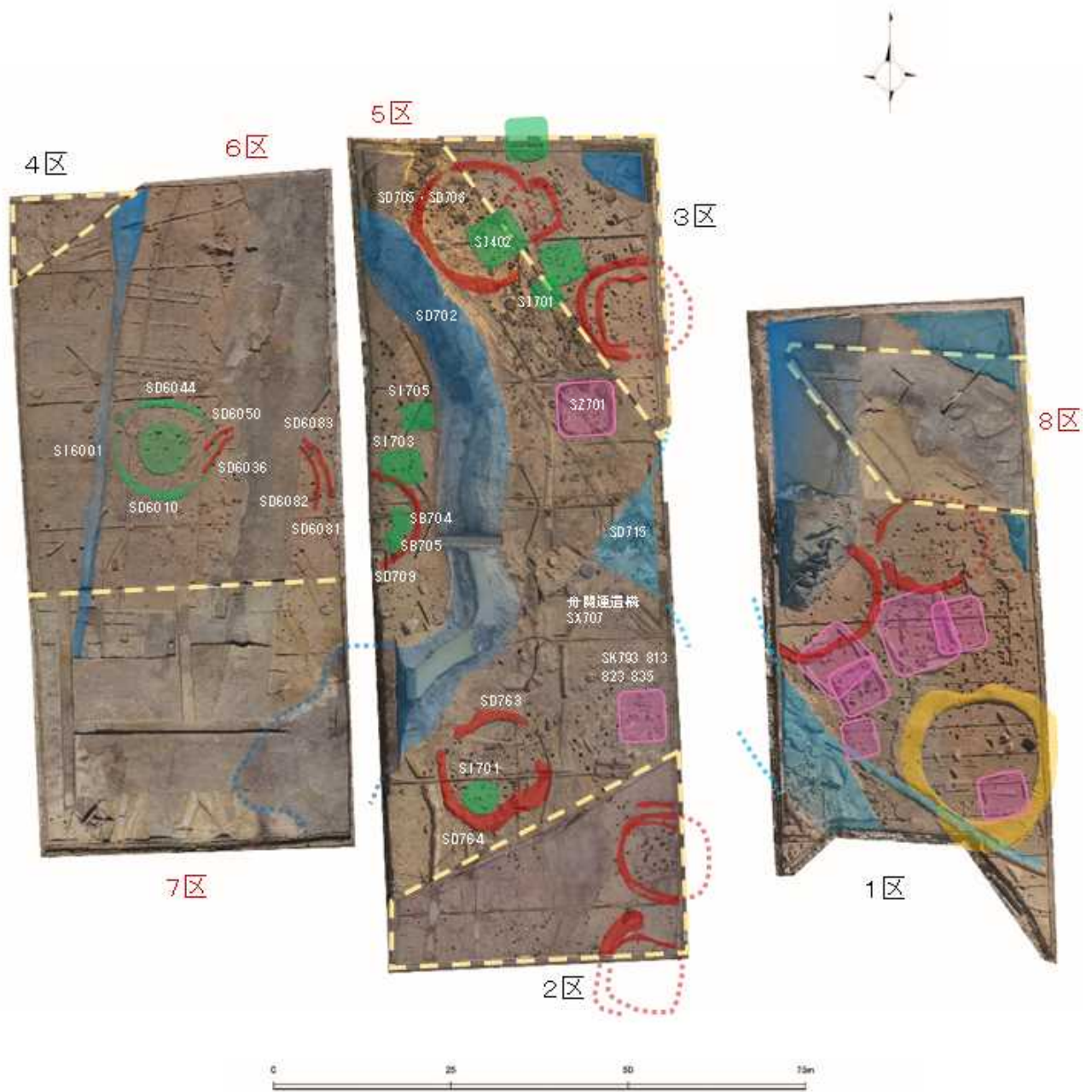
板材出土状況（南西より）



板材鋸状況（近景）



船材全体図



- |   |  |
|---|--|
|  方形周溝墓 |  平地式建物        |
|  古墳    |  川跡 (弥生~古墳時代) |
|  竪穴式建物 |  川跡・溝 (平安時代)  |

南新保C遺跡 遺構全体図

## 5. 南新保ゴマヂマチ遺跡

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市南新保町地内

北緯 36° 35′ 56″

東経 136° 37′ 48″

調査面積：6,900 m<sup>2</sup>

種別：集落跡

主な時代：弥生、古墳、平安、室町

担当：向井 裕知、鏡 百恵



### ■遺跡の概要

本遺跡は南新保C遺跡同様、金沢市南新保土地区画整理事業に伴い発掘調査を行った。

#### 〈南新保ゴマヂマチ遺跡の調査成果〉

南新保ゴマヂマチ遺跡は、調査区を1～3区とし、調査を行った。遺構確認面での標高は約2.30m～2.60m前後を測る。調査区全体において近現代の田畑の表層と深層を入れ替える天地返しによる攪乱溝が多数みられ、この攪乱溝が検出された箇所については20～50cmの深さで遺構が破壊されている状態であった。

天地返しの影響もあり、本調査区において検出された遺構は約50基程度で調査面積に対して遺構数は少ない。出土遺物も少なく、さらに遺構に伴う遺物も少ない。出土遺物は弥生時代から古墳時代にかけてのものが大半で、その他、平安時代の須恵器片、中世陶磁器、土師器皿が出土した。遺物の出土量が少なく、細片であるため遺構の時期を決定することは難しいが、おおむね弥生時代後半～古墳時代初頭、古代(平安時代)、中世(15・16世紀ごろ)の遺構に大別できると考えられる。

弥生時代後半～古墳時代初頭の遺構としては、南北方向に伸びる溝などがある。SD21は南側でSD18と合流しており、合流地点となる箇所ではSD21沿いに杭列(SX002)がみられ、護岸的役割をもつものと考えられる。

中世の遺構としては、2区西側調査区東端から2区東側調査区西端にかけて、隅丸形状に周回する溝(SD14, SD16)が検出された。溝の主軸はやや北西方向に傾いており、北側で一部溝が途切れ、開口部をもつ。覆土は黒褐色粘質土を基調とし、断面形状はU字形を呈する。この溝に囲まれた範囲の北端では、略長方形の土坑(SK001)が検出された。断面形状は碗形を呈し、覆土は黒色シルトを基調として炭化物、骨片を多く含む。溝(SD14, SD16)からは中世陶磁器、土坑からは土師器皿片が出土しており、15～16世紀を示すと考えられる。

土坑の覆土に炭化物、骨片を含むという様相は中世の火葬土壇墓の特徴を示している。加賀地方では14世紀後半頃から、土葬墓と併存して金沢市普正寺遺跡で見られるような火葬墓も広くみられるようになる(垣内光次郎、石井由美(1994)『中世加賀地方の中世墳墓』「中世北陸の寺院と墓」北陸中世土器研究会 308頁)。北陸の火葬墓の例は、火葬骨を埋納容器に入れて埋めるものと土坑を掘ってそのまま埋めるものがあり、地上面には配石や集石、15世紀後半頃からは石塔を造立するものも増加する。土葬墓では中世土師器や銅銭、数珠玉、漆器などが副葬されることが多いが、火葬墓では二次的埋葬のためか副葬品は少ない(財団法人富山県文化振興財団(1994)「梅原胡摩堂遺跡発掘調査

報告（遺構編）」『第IV章 5墓』563頁）。本遺構は、後世の削平を大きく受けその全貌は不明であるが、15～16世紀の火葬墓で、土坑の火葬骨をそのまま埋めるタイプのものである可能性が高い。

弥生時代～古墳時代の遺構は大半が溝であり、生活に直結するようなピットや土坑、住居址などは検出されなかった。また中世においては15～16世紀の墓と考えられる遺構が見つかったが、中世後期の北陸では墓地は住居等から離れた所に築くという特徴がみられる（同上 563頁）。本調査区の両時期において、住居などの居住空間は別に存在し、本調査区は集落の縁辺部にあたると考えられる。



SX002・SD018・SD021 断面（南から）



SX002 杭列出土状況（南東から）



弥生時代後半～古墳時代初頭の溝（SD006）断面（南から）



中世の溝（SD016）断面（南から）

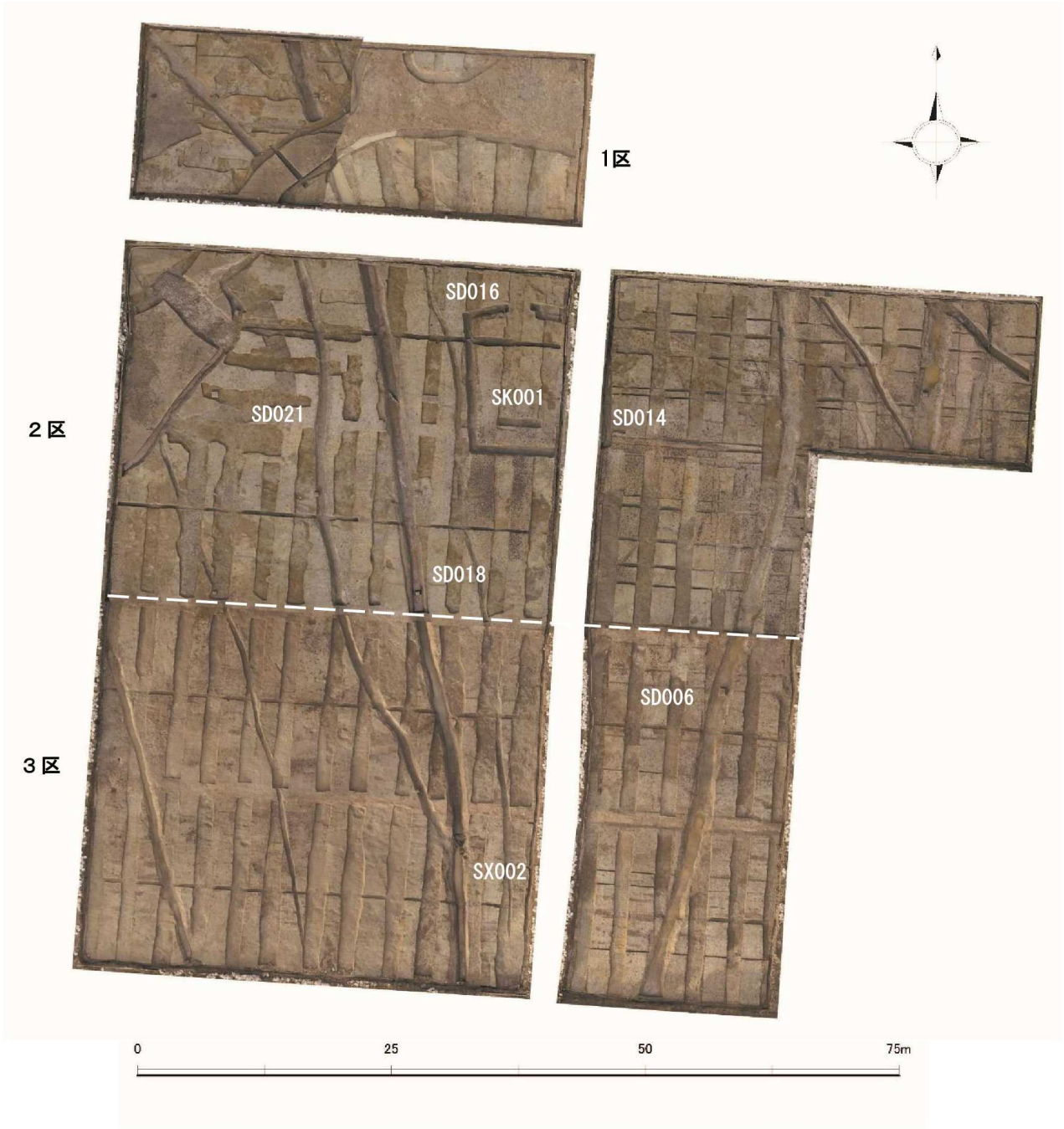


中世の土坑（SK001）検出全景（西から）



中世の土坑（SK001）断面（西から）





遺構全体図

わくなみいせき つつちようずえんしょうぐらあと  
B. 涌波遺跡【土清水塩硝蔵跡】

〈遺跡番号 県：1092 市：555〉

所在地：金沢市涌波町地内

北緯 36° 31′ 51″

東経 136° 41′ 26″

調査面積：135 m<sup>2</sup>

種別：黒色火薬製造施設

主な時代：江戸時代

担当：須貝 杏奈



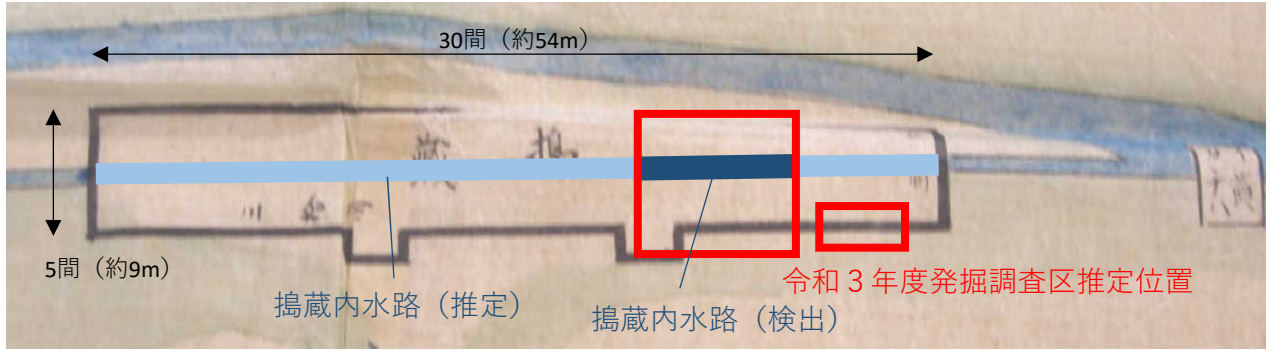
### 遺跡の概要

江戸時代、加賀藩が生産する黒色火薬はその質・量ともに日本一であるといわれており、この黒色火薬を製造していたのが土清水村・涌波村領内に建設された塩硝蔵である。各種史料からその敷地範囲は幕末時点で約 11 万 m<sup>2</sup>にわたると考えられており、敷地内には火薬製造に関する様々な施設が建設されていたことが判明しているが、加賀藩領内における火薬の製造は幕府との関係上極秘機密とされたため現存する関係史料も限定されており、その詳しい状況は未だ不明な部分が多い。

土清水塩硝蔵では平成19年度から平成22年度にかけて4次にわたり発掘調査が行われ、その結果、黒色火薬の製造に辰巳用水の水流を利用していたことが明らかとなり、平成25年3月27日に敷地の一部約3万2千 m<sup>2</sup>が、すでに国史跡となっていた辰巳用水の <sup>つけたり</sup>附として国の史跡に追加指定された。

金沢市では、史跡辰巳用水の水流を利用して黒色火薬を製造していた土清水塩硝蔵を地域の歴史を知るうえで貴重な歴史遺産であると位置づけ、令和2年度から遺構の復原を含めた史跡整備に着手しており、令和3年度に史跡整備に係る発掘調査として搗蔵跡の調査を実施した。搗蔵とは黒色火薬の原材料を搗いて粉末状に加工する施設であると考えられ、「土清水製薬所絵図」（以下絵図）からは南北30間（約54m）×東西5間（約9m）の建物に復元される。

発掘調査の結果、もともとの丘陵斜面の上に土盛りをして平坦面を造成していたことが判明した。土盛りは礫の混じる黒土を入れた後に、キメの細かい黄褐色の土を入れて堅くつき固めている。平坦面上には第3次調査（平成21年度）で検出された平行石列遺構の延長が確認された。平行石列遺構は南北方向に2列の石列を0.7m幅で平行に置くもので、石列は大部分が1段のみの設置だが一部に高さ調整のため2段に積む箇所があり、石列内には東西方向の石列4条により区画されている。これら石列は搗蔵内へ辰巳用水の水流を導水する水路の遺構と考えられるが、石列内には水流の痕跡が認められないことから木樋または石樋の土台である可能性が高い。また、同じく第3次調査で確認された搗蔵西端の延長も検出した。これは調査区北西端で西方に屈曲しており、絵図に見える搗蔵の突起部分に該当すると考えられる。その他、礎石状石材や石組遺構、切石、土坑などが検出されている。このうち石組遺構は長軸1.8m・短軸1.0mの土坑に20~30cmの自然石を3列に並べ、上面に堅く締まった黄褐色土を乗せるもので、水車の軸受けなど何らかの重量物を置くための基礎地業と見られる。その他の遺構については性格を決める判断材料に乏しく、引き続き検討を加える必要がある。



【絵図】（慶應4年）「土清水製薬所絵図」（石川県立歴史博物館蔵）



土坑堆積状況



搗蔵西端検出状況



水路遺構検出状況



完掘状況(西から)



石敷遺構検出状況



完掘状況(北から)

## C. 加賀藩主前田家墓所

所在地：金沢市野田町野田山地内

北緯 36° 31′ 42″

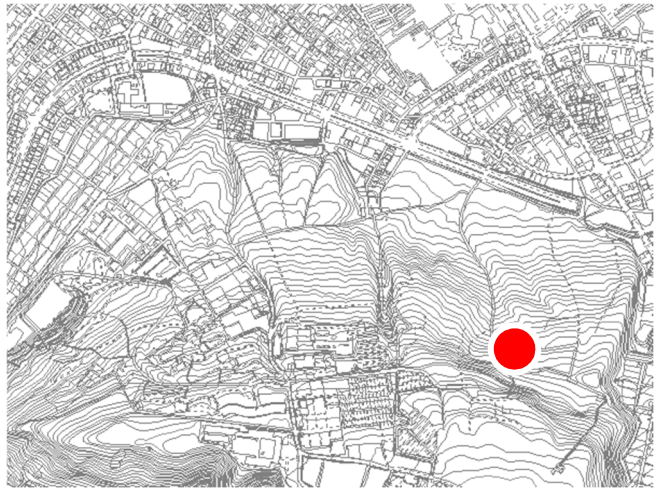
東経 136° 39′ 58″

調査面積：10 m<sup>2</sup>

種別：大名家墓所

主な時代：寛永 11 年（1634）

担当：谷口 明伸



### ■ 史跡の概要

加賀藩主前田家墓所は、江戸時代に加賀・能登・越中三ヶ国を領有した藩主家の墓所である（以下、「墓所」という。）。金沢市の南東部、倉ヶ岳を主峰とする富樫山地の北東端に位置する野田山丘陵の北東斜面中腹に占地し、藩主居城である金沢城からは直線距離にして南に約 3.5 km に位置する。墓所内には歴代藩主を中心に、藩主正室、生母、子女ら計 84 基の墳墓が造営されている。

藩主墓は土を方形に 3 段重ねた特徴的な形状（方形 3 段築造）をしており、藩祖前田利家墓で一辺が約 19m、以降の藩主墓では一辺約 16m を測る。藩政期初期の墳墓には墳丘の前面に造り出し状の祭壇部を設け、その上に石廟・石塔を安置したが、3 代利常以降の藩主墓は祭壇部及び石廟・石塔が廃止される。また、藩政期においては仏式葬であったが、藩主家が明治 7 年に神式葬へと転換したため、現在は墳墓の正面に鳥居が建てられ、前出の石廟・石塔も同時に撤去されたが、他家に嫁いだ子女らの墳墓にはそれらが現存するものがある。

墓所の始まりは利家の実兄利久を天正 15 年(1587)に葬ったことと伝えられるが、歴代藩主墓所としての嚆矢は慶長 4 年(1599)に死去した利家の墳墓造営となる。その際、利家は遺言により自らその墳墓の地を野田山に指定したといい、以降、4 代光高・9 代重靖を除く歴代藩主は方形 3 段築造という特異な墳墓形式をもってこの地に埋葬された。個々の墳墓の大きさ、墓所全体の面積ともに全国でも最大級の規模であり、加賀百万石の大名家墓所として堂々たる威容を誇る。

前田家墓所は織豊期から現代に至るまでの墓所の変遷をたどることができ、その規模の大きさと独特の墳墓形態も含め、日本を代表する大名家墓所の一つとして極めて高い文化財的価値を有していることから、平成 21 年 2 月 12 日に国の史跡に指定された。指定面積は 86,294.35 m<sup>2</sup> である。

金沢市では、平成 20 年度の国史跡指定を受け、翌 21 年度に保存管理計画を、同 22 年度に整備基本計画を策定した。これに基づき同 23 年度から史跡の本格整備に着手している。

### ■ 豪墓の概要

豪は利家の 4 女で寛永 11 年(1634)没。生母は利家の正室まつ。墳墓は標高 159～161m の緩斜面に立地し、平面形は方形の 2 段築造。豪墓は菩提寺である大蓮寺が継続して管理を行ってきたため、前田家による神式葬への転換の影響を受けず、墳丘前面に寛永 11 年造営の五輪塔が現存する。五輪塔は墳丘前面に設けた造り出し状の祭壇部の上に安置される。墳墓の周囲には 1 辺約 35m のほぼ正方形の堀が廻る。

五輪塔は越前笏谷石（凝灰岩）製で塔高は 309 cm を測る。火輪の軒口が厚く、軒端を切り取り、風輪・空輪が大きいという、典型的な近世の五輪塔の様相を見せる。空輪から地輪の正面にそれぞれ「祖」「師」「西」「来」「意」と刻書し、地輪には豪の没年月日と法名を刻銘する。

## ■ 保存修復の経緯と経過

豪墓五輪塔は史跡内に唯一現存する五輪塔であり貴重な構成要素の一つであるが、造立後約 400 年を経過し石材の劣化・風化が顕著に認められるため、解体修理による保存対策が必要であると判断され、令和元年度より金沢市が保存修復事業に着手している。

令和元年度は解体前調査として五輪塔を含む墓域全体の現況測量調査及び五輪塔の破損状況調査を行って現状を把握し、同 2 年度に五輪塔を解体、同 3 年度に解体した石材のうち空輪から地輪までの強化剤含浸による保存処理を実施した。今後は同 4・5 年度に保存処理及び破損箇所の修復を行うと同時に再設置箇所の地盤強化を行い、同 6 年度以降に現地での復元を予定している。これに伴い、同 2 年度から 3 年度にかけて五輪塔の基礎構造把握を目的とした発掘調査を実施した。

## ■ 令和 3 年度発掘調査の概要

令和 3 年度の発掘調査は昨年に引き続き五輪塔の基礎構造把握を目的として実施した。調査区は昨年度調査区の東西に隣接する箇所に設定し、人力により表土を除去したうえで遺構検出を行った。調査では、五輪塔を設置する祭壇部と呼ばれる造り出し状の突出部を構成する盛土が確認され、おおよそ以下のような層序が検出された。

【上から】①茶褐色粘質土《表土》

②黄褐色粘質土（大小礫多く含み堅く締まる）《五輪塔基壇のベース土》

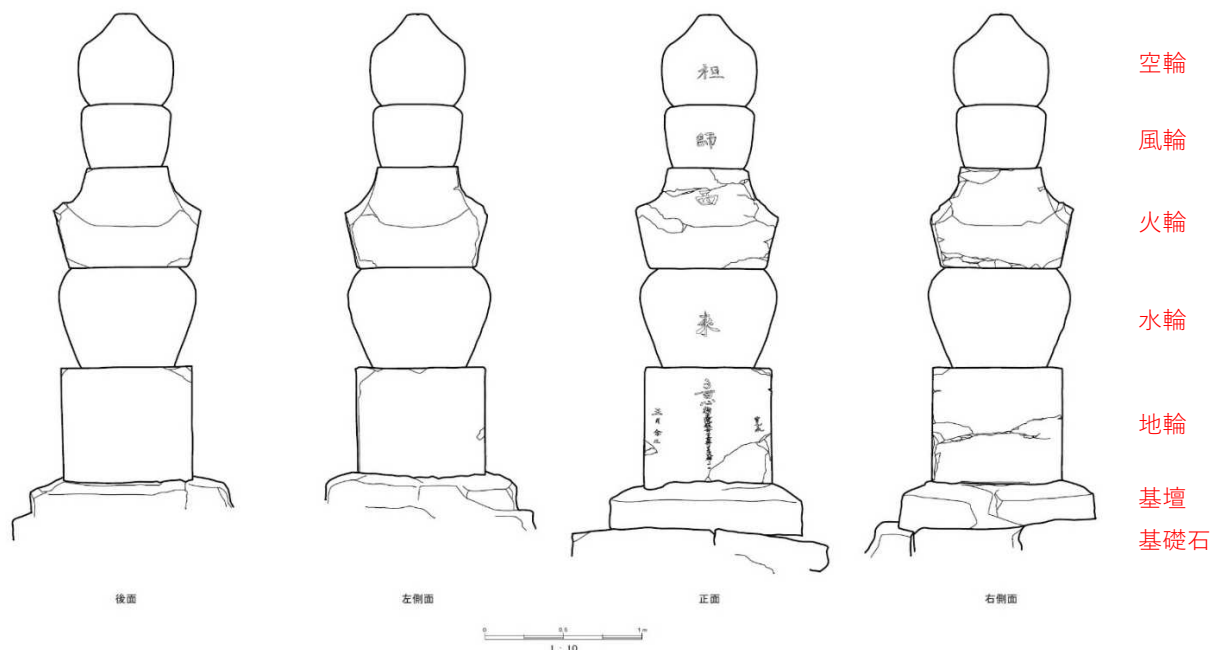
③黒褐色粘質土（小礫含む）《盛土 1》

④明褐色粘質土（黒褐色粘質土含む）《盛土 2》

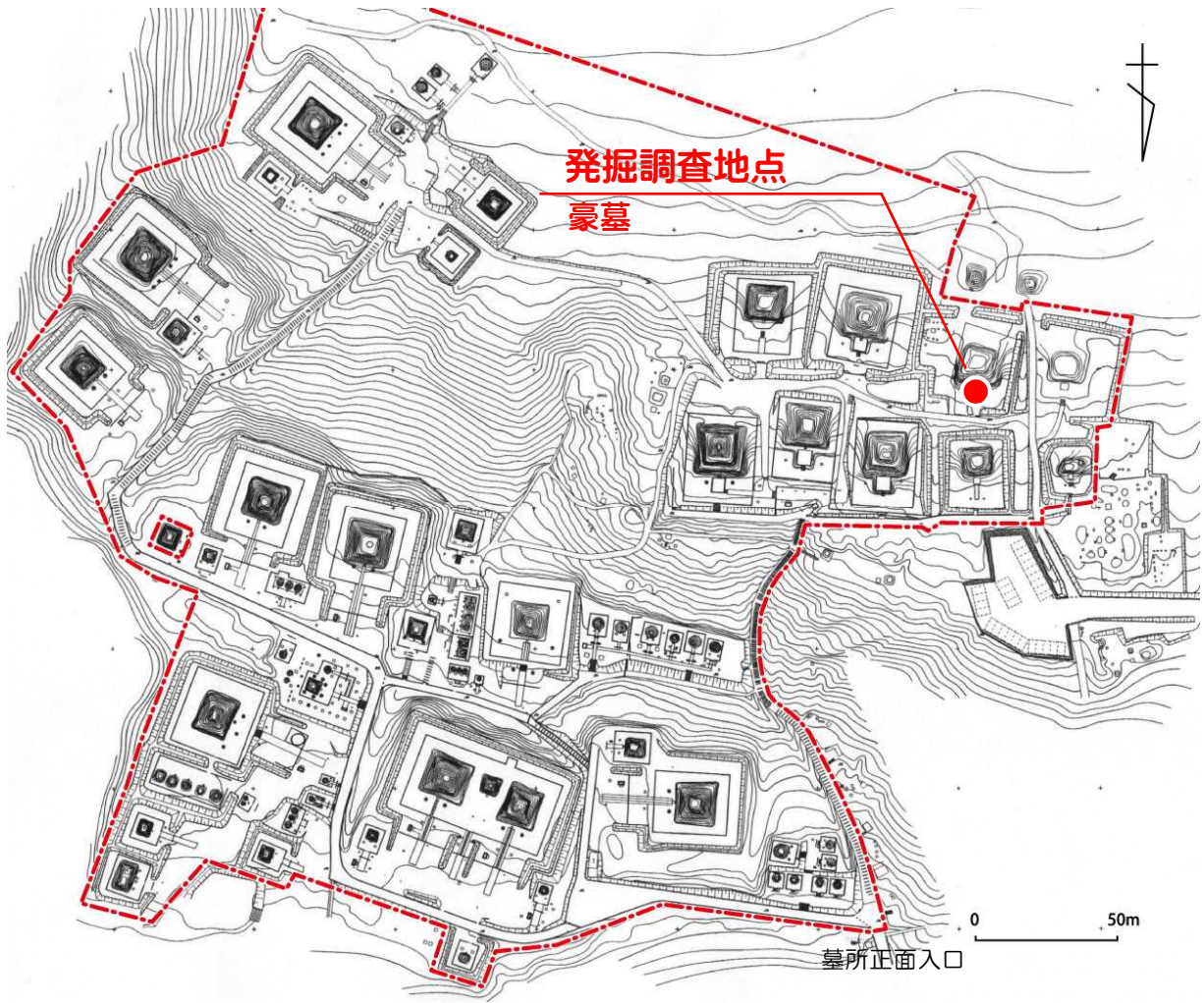
⑤黒褐色粘質土と暗褐色粘質土の互層（堅く締まる）《盛土 3》

このうち土層①～④は昨年度調査で確認されており、新たに土層⑤が確認された。土層⑤は厚く堆積しており、調査範囲内ではその底面は確認されていない。これにより、土層⑤により祭壇部が形成され、その上面に土層④と③を貼り、さらにその上に五輪塔の基礎となる土層②を載せて五輪塔を建てる、という構造が判明した。なお、土層①～④の詳細は令和 2 年度金沢市埋蔵文化財調査年報を参照いただきたい。

これら発掘調査の成果は令和 6 年度以降の豪墓五輪塔復元整備に反映させる予定である。



豪墓五輪塔立面図



豪墓(五輪塔解体前)



発掘調査状況



祭壇部盛土状況(東側壁面)



祭壇部盛土状況(西側壁面)

## 2. 埋蔵文化財分布調査事業

### 令和3年度埋蔵文化財分布調査の概要

金沢市では、公共事業に関する土木工事や建設工事等および民間の開発行為や農地転用の際に、金沢市遺跡地図に基づき図面調査及び現地での踏査・試掘調査を実施し、開発事業着手前に埋蔵文化財の有無を確認している。

令和3年度は金沢市施工の公共事業10件、民間の開発事業・農地転用等131件について、埋蔵文化財の有無を調査した。以下はその一覧である。

なお、平成23年度より、開発事業に伴う試掘確認調査については国庫及び県費補助事業にて実施しており、令和3年度の事業費は4,786千円であった。

このほか、周知の埋蔵文化財包蔵地内における工事に伴うもので、文化財保護法第93条及び第94条に基づく慎重工事及び工事立会での対応となったものは47件で、別表のとおりであった。

### 公共事業に係る埋蔵文化財確認調査一覧

ID	場 所	事 業 名	担 当 課	回 答 日	面 積	調 査 方 法	有 無	対 応
1	大浦町ヌル・ヲ	河川改修	内水整備課	6月14日	77,000㎡の一部	試掘	無	支障なし
2	寺町5丁目600番地先 (六斗広見)	防火水槽設置	歴史都市推進課	7月26日	42.㎡	試掘	有	R3発掘調査 (寺町六斗広見遺跡)
3	西念4丁目7-1 (中央卸売市場)	中央卸売市場再整備	中央卸売市場事務局	7月28日 8月4日 8月25日 9月4日 9月15日 9月29日	9,600㎡	試掘	有	R4以降、試掘調査継続 (西念クボ遺跡、二口六丁A遺跡)
4	泉本町6丁目29・34	新共同調理場建設	教育総務課	10月19日	8,550㎡	試掘	無	支障なし
5	田井町181-1(兼六中学校)	駐輪場設置	営繕課	10月22日	108.63㎡	試掘	無	支障なし
6	主計町30	防火水槽設置	歴史都市推進課	11月2日	70.㎡	試掘	有	R4発掘調査 (金沢城下町遺跡)
7	丸の内町	夜間照明取替え	景観政策課	11月5日	1,000.㎡	工事立会	無	支障なし
8	木越町ホ	河川改修	内水整備課	11月9日 11月16日	7,000㎡	試掘	無	支障なし
9	尾張町2丁目611-2	ふくろう通り無電柱化	道路建設課	12月7日	23.15㎡	試掘	有	慎重工事 (金沢城下町遺跡)
10	松村2丁目157	松村第3公園四阿改築工事	営繕課	1月6日	30.43㎡	工事立会	無	支障なし

民間の開発行為に係る埋蔵文化財確認調査一覧

ID	場 所	行為の内容	申請日	回答日	面 積	調査方法	結果	対 応
1	近岡町798	住宅建設	3月26日	4月2日	770.㎡	試掘	無	支障なし (近岡遺跡)
2	旭町2丁目97～100	店舗建設	2月26日	4月6日	1,084.75㎡	試掘	無	支障なし
3	古府町南630	宅地造成、住宅建設	3月22日	4月8日	273.69㎡	試掘	無	支障なし (古府遺跡)
4	法光寺町73の一部・74	宅地造成	4月7日	4月13日	763.㎡	試掘	無	支障なし (法光寺遺跡)
5	小立野5丁目1-5	認定こども園改築	4月1日	4月13日	2,088.75㎡	試掘	無	支障なし
6	古府西1丁目9～13	事務所増築	4月8日	4月15日	989.23㎡	試掘	無	支障なし
7	松村7丁目63	共同住宅建設	3月29日	4月15日	689.89㎡	試掘	無	支障なし (松村A遺跡)
8	西町四番丁17-26～28	住宅建設	4月13日	4月19日	506.01㎡	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
9	専光寺町ワ54-3他20筆・レ1-1他8筆・金沢市所管の法定外公共物の一部	宅地造成	4月15日	4月22日	7,757.83㎡	試掘	無	支障なし
10	長坂2丁目1213	住宅建設	4月13日	4月23日	147.13㎡	試掘	無	支障なし (長坂古墳群)
11	畷田東2丁目268の一部	住宅建設	4月19日	4月27日	219.88㎡	試掘	有	工事立会 (畷田ナベタ遺跡)
12	古府町南448-1・449	宅地造成	4月20日	4月27日	873.㎡	試掘	無	支障なし (古府遺跡)
13	北町乙30	集合住宅建設	3月19日	4月28日	777.89㎡	試掘	有	工事立会・R3発掘調査 (北町遺跡)
14	南新保町口29-1	店舗建設	4月8日	4月28日	1,356.15㎡	試掘	無	支障なし
15	兼六元町61-1・65-1・75	住宅または店舗建設	4月30日	5月11日	901.37㎡	試掘	有	工事立会 (金沢城下町遺跡)
16	神野2丁目47・55-1・294	公民会館建替え	4月23日	5月11日	1,566.㎡	試掘	無	支障なし
17	大額1丁目38-1・38-4	住宅建設	5月6日	5月13日	323.93㎡	試掘	無	支障なし (大額キョウデン遺跡)
18	畷田西3丁目104	住宅建設	3月12日	5月17日	149.27㎡	試掘	無	支障なし (畷田遺跡)
19	尾張町1丁目200・201	住宅建設	4月13日	5月17日	135.14㎡	試掘	有	工事立会 (金沢城下町遺跡)
20	入江2丁目343	住宅建設	5月13日	5月18日	650.4㎡	試掘	無	支障なし (玉鉾遺跡)
21	南森本町ツ3-1・3-3、北森本町イ56-2	住宅建設	5月6日	5月19日	1,081.75㎡	試掘	無	支障なし
22	玉鉾3丁目5	事務所新築	5月11日	5月20日	448.14㎡	試掘	無	支障なし (玉鉾B遺跡)
23	古府3丁目138	住宅建設	4月30日	5月20日	323.㎡	試掘	無	支障なし (古府B遺跡)
24	福増町北860	事務所新築	4月28日	5月21日	563.79㎡	試掘	無	支障なし (安原工業団地A遺跡)
25	金石本町ハ7-1・7-1・8・9・20-1	店舗建設	5月11日	5月21日	3,283.26㎡	試掘	無	支障なし (金石本町遺跡)
26	西大桑町701・703-2・710・714・5106	こども園建替え	4月23日	5月24日	1,706.05㎡	試掘	無	支障なし
27	有松2丁目638・639・641～647、有松3丁目15～18	店舗建設	5月11日	5月25日・2月18日	5,483.62㎡	試掘	無	支障なし (有松D遺跡)
28	矢木2丁目186	住宅建設	1月15日	5月27日	105.62㎡	試掘	無	支障なし (矢木マツノキダ遺跡)
29	高尾台1丁目225・226	住宅建設	5月19日	5月31日	391.㎡	試掘	無	支障なし (高尾天神堂遺跡)
30	薬師堂町口20-1	住宅建設	4月23日	6月1日	172.11㎡	試掘	無	支障なし (薬師堂遺跡)
31	西金沢1丁目95-1・101・102-1	事務所・駐車場建設	5月28日	6月1日	5,408.31㎡	試掘	無	支障なし
32	武蔵町510-2	住宅建設	5月18日	6月3日	138.43㎡	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
33	高尾台1丁目332	住宅建設	6月3日	6月8日	278.39㎡	試掘	有	慎重工事 (高尾新マツバ遺跡)

ID	場 所	行為の内容	申請日	回答日	面 積	調査方法	結果	対 応
34	大額1丁目361～365	共同住宅建設	6月10日	6月16日	1,366.㎡	試掘	無	支障なし
35	泉野出町4丁目1302～1306・1317～1321	店舗建設	4月8日	6月17日	2,912.㎡	試掘	有	発掘調査 (泉野出町4丁目遺跡)
36	末町16字85	住宅建設	6月14日	6月18日	667.92㎡	試掘	無	支障なし (末遺跡)
37	下石引町1-1	上屋(救急搬入口屋根)増築	12月10日	6月21日	16.73㎡	試掘	有	工事立会 (金沢城下町遺跡、奥村家(宗家)屋敷跡)
38	黒田2丁目249	住宅建設	5月6日	6月23日	191.26㎡	試掘	無	支障なし (黒田町遺跡)
39	寺地1丁目404	住宅建設	3月31日	7月2日	154.33㎡	試掘	有	工事立会 (寺地B遺跡)
40	大豆田本町口46-8・ハ2-3・ハ2-8	事務所建替え	6月11日	7月9日	1,255.66㎡	試掘	無	支障なし
41	畷田西3丁目131	住宅建設	7月1日	7月9日	356.31㎡	試掘	無	支障なし (畷田・寺中遺跡)
42	西泉3丁目12・13-1	共同住宅建設	6月21日	7月12日	1,230.85㎡	試掘	無	支障なし
43	高島2丁目36-1・2	住宅建設	7月8日	7月20日	330.71㎡	試掘	無	支障なし (高島遺跡)
44	駅西本町2丁目406・409～411	共同住宅建設	7月14日	7月26日	1,440.㎡	試掘	無	支障なし (二口町遺跡)
45	押野2丁目164-2	住宅建設	7月16日	7月27日	163.57㎡	試掘	無	支障なし (押野西遺跡)
46	増泉1丁目506	接骨院兼用住宅建設	7月20日	8月2日	151.53㎡	試掘	無	支障なし (増泉遺跡)
47	瓢箪町615・616	住宅建設	7月15日	8月6日	186.59㎡	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
48	福増町北852-4	事務所建設	8月2日	8月6日	236.91㎡	試掘	無	支障なし (安原工業団地遺跡)
49	北町乙29	住宅建設	8月3日	8月10日	787.㎡	試掘	有	工事立会 (北町遺跡)
50	古府町南587	住宅建設	8月20日	8月26日	165.29㎡	試掘	無	支障なし (古府遺跡)
51	八日市1丁目680	住宅建設	8月25日	8月30日	110.26㎡	試掘	無	支障なし (上宮寺跡)
52	御供田町ハ71-1他3筆、ニ1-1・ニ1-4・金沢市所管の法定外公共物の一部	長屋住宅建設	7月21日	9月3日	1,442.㎡	試掘	無	支障なし
53	直江南1丁目90～92	共同住宅建設	8月25日	9月9日	1,491.㎡	試掘	有	未定 (直江タカシ遺跡)
54	福増町南293	住宅建設	9月3日	9月10日	119.38㎡	試掘	無	支障なし (福増遺跡)
55	高尾町ル33-1	住宅建設	9月6日	9月14日	204.16㎡	試掘	無	支障なし (高尾遺跡)
56	桂町ハ17・41-1	宅地造成	9月13日	9月17日	1,395.66㎡	試掘	有	支障なし
57	新保本5丁目55～58・63～66	店舗建設	9月6日	9月21日	3,409.㎡	試掘	有	工事立会・発掘調査 (新保本町東遺跡)
58	乙丸町丙25	賃貸住宅建設	9月6日	9月22日	1,022.㎡	試掘	無	支障なし
59	尾張町1丁目65	店舗建設	8月18日	9月24日	199.33㎡	試掘	有	未定 (金沢城下町遺跡)
60	窪1丁目93-1	売買	9月16日	9月24日	1,516.57㎡	試掘	無	支障なし (高尾城跡)
61	松村7丁目135	携帯電話基地局新設	7月29日	9月27日	388.2㎡	試掘	無	支障なし (松村どのまえ遺跡)
62	彦三町1丁目382	共同住宅建設	7月27日	9月27日	296.14㎡	試掘	有	工事立会 (金沢城下町遺跡)
63	長坂3丁目1214～1216	宅地造成	9月3日	9月30日	1,260.㎡	試掘	無	支障なし
64	大額2丁目205	共同住宅建設	9月17日	10月1日	248.㎡	試掘	無	支障なし (大額キョウデン遺跡)
65	鳴和1丁目11～13・16・18～20	店舗建設	8月20日	10月4日	4,197.98㎡	試掘	無	支障なし
66	佐奇森町ル6	立体駐車場建設	9月27日	10月11日	32,085.48㎡	試掘	無	支障なし



ID	場 所	行為の内容	申請日	回答日	面 積	調査方法	結果	対 応
67	藤江北2丁目131	住宅建設	9月8日	10月11日	173.48㎡	試掘	無	支障なし (藤江C遺跡)
68	百坂町口112-1	住宅建設	9月3日	10月12日	245.17㎡	試掘	無	支障なし (百坂C遺跡)
69	若宮2丁目258・259	住宅建設	10月13日	10月15日	283.77㎡	試掘	無	支障なし (若宮遺跡)
70	押野2丁目118	住宅建設	10月13日	10月20日	194.57㎡	試掘	無	支障なし (押野西遺跡)
71	元菊町328-24・25、333	長屋住宅建設	10月20日	10月21日	316.83㎡	試掘	無	支障なし (元菊町遺跡)
72	北安江1丁目1004の一部・1005の一部	宅地造成	8月19日	10月29日	1,515.16㎡	試掘	無	支障なし
73	額新町2丁目124	保育園建替え	10月11日	11月1日	1,388.74㎡	試掘	有	発掘調査 (額新町遺跡)
74	古府町南585	住宅建設	9月28日	11月1日	128.67㎡	試掘	無	支障なし (古府遺跡)
75	浅野本町2丁目124・126～128	宅地造成	10月16日	11月2日	1,130.㎡	試掘	無	支障なし
76	才田町は160	住宅建設	10月27日	11月5日	319.13㎡	試掘	無	支障なし (才田御亭山古墳群)
77	長坂2丁目1507	宅地造成	8月21日	11月5日	346.82㎡	試掘	無	支障なし (長坂A遺跡)
78	末町22字・辰巳町ハ	宅地造成	7月26日	11月8日	8,696.㎡	試掘	無	支障なし
79	南森本町2丁目72の一部	住宅建設	10月25日	11月11日	223.19㎡	試掘	有	慎重工事 (亀田大隅岳信館跡)
80	鳴瀬元町ニ190-1	携帯電話基地局の新設	10月26日	11月12日	110.㎡	試掘	無	支障なし (戸保木遺跡)
81	高尾台1丁目254	住宅建設	10月26日	11月12日	193.42㎡	試掘	無	支障なし (高尾天神堂遺跡)
82	兼六元町577-1	駐車場	11月1日	11月12日	78.98㎡	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
83	森戸1丁目28-1	住宅建設	10月26日	11月15日	512.98㎡	試掘	無	支障なし (森戸本町遺跡)
84	高尾台1丁目306～308・310	共同住宅建設	11月12日	11月18日	1,071.㎡	試掘	無	支障なし
85	桂町ニ2-1・3-1・4-1・5-1・6-1・26-30	宅地造成	11月8日	11月18日	2,733.㎡	試掘	無	支障なし (桂町遺跡)
86	才田町は159-1	倉庫建設	11月8日	11月19日	319.13㎡	試掘	無	支障なし (才田御亭山古墳群)
87	桂町ト2-1・27-1	宅地造成	9月29日	11月26日	2,092.74㎡	試掘	無	支障なし
88	高尾3丁目78	宅地造成	11月26日	12月2日	523.㎡	試掘	有	未定 (高尾新町跡)
89	磯部町チ28-1	住宅建設	11月30日	12月8日	694.㎡	試掘	有	未定 (磯部運動公園遺跡)
90	彦三町1丁目50-3	住宅建設	11月26日	12月14日	145.78㎡	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
91	彦三町1丁目50-7	住宅建設	11月26日	12月14日	95.7㎡	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
92	尾張町2丁目464	土留め兼基礎水漏れ修繕	12月2日	12月17日	180.04㎡	立会	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
93	武蔵町202	住宅建設	12月7日	12月17日	73.08㎡	試掘	有	支障なし (金沢城下町遺跡)
94	御影町328-1・329-1・323・322	作業場建設	12月14日	12月21日	1,662.64㎡	試掘	無	支障なし
95	百坂町口46-5・45-16	住宅建設	12月17日	12月22日	160.66㎡	試掘	無	支障なし (百坂C遺跡)
96	兼六元町405	住宅建設	12月17日	12月22日	88.43㎡	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
97	湊3丁目5-7の一部・5-8の一部・5-9の一部	サイロ建設	12月15日	12月27日	33.82㎡	試掘	無	支障なし
98	佐奇森町イ26-14・26-42	売買	12月20日	1月7日	30.43㎡	試掘	無	支障なし (佐奇森遺跡)
99	泉が丘2丁目237-6・244-9・246-4のそれぞれ一部	共同住宅建設	12月15日	1月11日	167.1㎡	試掘	無	支障なし
100	黒田町2丁目342	住宅建設	12月21日	1月11日	1,267.24㎡	試掘	無	支障なし (古府遺跡)

ID	場 所	行為の内容	申請日	回答日	面 積	調査方法	結果	対 応
101	西念4丁目506	共同住宅建設	9月27日	1月12日	100.78㎡	試掘	無	支障なし (西念ネジタ遺跡)
102	福増町南299	住宅建設	1月6日	1月13日	476.㎡	試掘	無	支障なし (福増遺跡)
103	示野町イ27-1の一部	車庫増築	12月3日	1月18日	629.㎡	試掘	有	支障なし
104	堅田町甲85-1	寄宿舎建替え	12月23日	1月20日	1,490.83㎡	試掘	有	支障なし
105	昌永町571・572・575・585・675他	店舗建設	1月11日	1月20日	1,221.24㎡	試掘	無	支障なし
106	兼六元町244	住宅建設	12月17日	1月21日	3,307.55㎡の一部	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
107	湊2丁目138・139	売買	1月18日	1月26日	102.28㎡	試掘	有	支障なし
108	高尾南1丁目70	住宅建設	1月18日	1月27日	3,226.㎡	試掘	無	支障なし (高尾遺跡)
109	駅西本町2丁目1201～1204・1222	社屋建設	1月19日	1月27日	315.㎡	試掘	無	支障なし
110	近岡町15-1・16-1・17-1・17-2	集合住宅建設	1月21日	1月28日	1,397.83㎡	試掘	無	支障なし
111	西金沢2丁目114	倉庫建設	1月28日	2月2日	398.㎡	試掘	無	支障なし (西金沢新町遺跡)
112	米泉町1丁目48・49	分譲住宅建設	1月28日	2月2日	1,089.㎡	試掘	無	支障なし
113	千田町口32	駐車場建設	1月6日	2月3日	1,027.㎡	試掘	無	支障なし
114	間明町2丁目24-2	分譲マンション建設	1月25日	2月4日	1,493.17㎡	試掘	無	支障なし
115	笠舞2丁目325	住宅建設	1月14日	2月9日	185.12㎡	試掘	無	支障なし (笠舞B遺跡)
116	彦三町1丁目253-1	住宅建設	2月4日	2月9日	207.92㎡	試掘	有	工事立会 (金沢城下町遺跡)
117	高島2丁目163-2	車庫建替え	2月4日	2月18日	233.44㎡	試掘	無	支障なし (高島遺跡)
118	有松2丁目647	放課後児童クラブ、スポーツ練習場等新設	2月4日	2月18日	350.24㎡	試掘	無	支障なし (有松D遺跡)
119	元菊町206	住宅建設	2月15日	2月22日	87.61㎡	試掘	無	支障なし (元菊町遺跡)
120	押野3丁目635・636-1・636-2・654・655	共同住宅建設	2月17日	3月1日	1,055.㎡	試掘	無	支障なし
121	北町乙49・50	賃貸住宅建設	2月4日	3月3日	1,576.㎡	試掘	有	未定 (北町遺跡)
122	東蚊爪町ハ161～163	庫裏建替え	2月14日	3月4日	3,867.99㎡	試掘	無	支障なし
123	山科町東57	住宅建設	1月17日	3月4日	217.15㎡	試掘	無	支障なし (山科かねつき堂遺跡)
124	古府2丁目77・78	店舗建設	2月21日	3月7日	2,589.89㎡	試掘	無	支障なし
125	浅野本町ニ126-1、127-1	事務所建設	1月14日	3月7日	1,607.39㎡	試掘	無	支障なし
126	高島2丁目169	駐車場敷設	3月8日	3月9日	167.56㎡	試掘	無	支障なし (高島遺跡)
127	駅西本町3丁目409-1	住宅建設	3月9日	3月24日	328.63㎡	試掘	無	支障なし (二口シミツ遺跡)
128	黒田1丁目52-1	住宅建設	3月2日	3月25日	155.38㎡	試掘	無	支障なし (黒田B遺跡)
129	尾張町1丁目162・163・167	共同住宅建設	11月12日	3月26日	413.51㎡	試掘	無	支障なし (金沢城下町遺跡)
130	横山町590	住宅建設	3月22日	3月29日	167.03㎡	試掘	無	支障なし (横山氏屋敷跡)
131	城南2丁目955-1、957-1	介護施設建設	3月11日	3月29日	1,250.03㎡	試掘	無	支障なし

## (別表)土木工事のための埋蔵文化財発掘届・発掘通知一覧

ID	届・通知の別	場 所	行為の内容	届出日	取 扱 通知日	面 積	遺跡名	対 応
1	93条(届)	戸板1丁目128-2	分譲住宅建設	4月5日	4月5日	149.93 ㎡	薬師堂遺跡	工事立会
2	93条(届)	下石引町1-1	土堀の修繕・補強	4月9日	4月9日	125.4 ㎡	金沢城下町遺跡 (奥村氏(宗家)屋敷跡地区)	工事立会
3	93条(届)	戸板1丁目128-4、130-2	個人住宅建設	4月27日	4月27日	50.78 ㎡	薬師堂遺跡	慎重工事
4	94条(通知)	芳斉2丁目69 外18筆	特別支援教育サポートセンター(仮称)等建設工事	4月30日	4月30日	7,700. ㎡	芳斉2丁目遺跡(3番地点)	発掘調査
5	93条(届)	戸板1丁目120-1	個人住宅建設	5月7日	5月7日	155.22 ㎡	薬師堂遺跡	工事立会
6	93条(届)	矢木2丁目68-7	分譲住宅建設	5月7日	5月7日	161.8 ㎡	矢木ヒガシウラ遺跡	慎重工事
7	93条(届)	畝田東2丁目286の一部	個人住宅建設	5月10日	5月10日	219.88 ㎡	畝田ナベタ遺跡	工事立会
8	93条(届)	北町乙30	共同住宅の建設(擁壁あり)	5月14日	5月14日	792.07 ㎡	北町遺跡	工事立会・ 発掘調査
9	93条(届)	尾張町1丁目200、201	個人住宅建設	5月19日	5月19日	81.98 ㎡	金沢城下町遺跡	工事立会
10	93条(届)	宝町13-1	病院機能強化棟新築工事	5月25日	5月25日	991. ㎡	宝町遺跡	発掘調査
11	93条(届)	古府2丁目154-5	個人住宅建設	5月31日	5月31日	161.91 ㎡	古府B遺跡	慎重工事
12	93条(届)	兼六元町61-1、65-1、75	時間貸し駐車場造成工事	6月2日	6月2日	901.91 ㎡	金沢城下町遺跡	工事立会
13	93条(届)	畝田東4丁目1124、1125	店舗建設	6月17日	6月17日	561. ㎡	畝田C遺跡	慎重工事
14	93条(届)	畝田東2丁目614	個人住宅建設	6月18日	6月18日	155.95 ㎡	畝田ナベタ遺跡	工事立会
15	93条(届)	近岡町103-1 外3筆	店舗建設	6月18日	6月18日	985. ㎡	大友E遺跡	工事立会
16	93条(届)	下石引町1-1	通路上屋の建設	6月30日	6月30日	16.73 ㎡	金沢城下町遺跡 (奥村氏(宗家)屋敷跡地区)	工事立会
17	93条(届)	寺地1丁目404	個人住宅建設	7月5日	7月5日	153.16 ㎡	寺地B遺跡	工事立会
18	94条(通知)	本多町3丁目51-1	舗装道路改修工事	7月7日	7月7日		金沢城下町遺跡	慎重工事
19	93条(届)	南新保町又1~7、41~43	土地区画整理	7月9日	7月9日		南新保C遺跡	発掘調査
20	93条(届)	南森本町ル131-1、132-1、133-1、134-1、135-1	分譲宅地造成	7月15日	7月15日		南森本遺跡	発掘調査・ 工事立会
21	94条(通知)	寺町5丁目660番地先	防火水槽設置	7月26日	7月26日	42. ㎡	寺町六斗広見遺跡	発掘調査
22	93条(届)	直江南2丁目64	個人住宅建設	7月29日	7月29日	223.01 ㎡	直江北遺跡	慎重工事
23	93条(届)	南新保町リ100~103、128~132	土地区画整理	8月18日	8月18日		南新保ゴマヂマチ遺跡	発掘調査
24	93条(届)	直江西1丁目10	分譲住宅建設	8月18日	8月18日	217. ㎡	直江北遺跡	慎重工事
25	93条(届)	直江町西1丁目6の一部、7の一部	展示住宅建築工事	8月20日	8月20日	156.6 ㎡	直江北遺跡	慎重工事
26	93条(届)	観法寺町い29-1	個人住宅建設	8月20日	8月20日	203.16 ㎡	観法寺遺跡	工事立会
27	93条(届)	大桑1丁目119	個人住宅建設	8月20日	8月20日	172.79 ㎡	大桑ジョウデン遺跡	慎重工事

ID	届・通知の別	場 所	行為の内容	届出日	取 扱 通知日	面 積	遺跡名	対 応
28	93条(届)	押野3丁目579-2	個人住宅建設	8月23日	8月23日	152.89 ㎡	押野西遺跡	慎重工事
29	93条(届)	北町乙29	共同住宅建設	8月23日	8月23日	788.48 ㎡	北町遺跡	工事立会
30	94条(通知)	石引1丁目1-1先~石引3丁目113先	下水道管改築	9月15日	9月15日		辰巳用水	工事立会
31	93条(届)	高尾台1丁目332	個人住宅建設	9月17日	9月17日		高尾新マトバ遺跡	慎重工事
32	93条(届)	彦三町1丁目382	共同住宅建設	10月1日	10月1日	296.14 ㎡	金沢城下町遺跡	工事立会
33	93条(届)	北町乙29	共同住宅建設	10月13日	10月13日	788.48 ㎡	北町遺跡	工事立会
34	93条(届)	大桑1丁目148-1	賃貸住宅建設	11月12日	11月12日	255.81 ㎡	大桑ジョウデン遺跡	工事立会
35	93条(届)	南森本町72の一部	個人住宅建設	11月17日	11月17日		亀田大隈岳信館跡	慎重工事
36	93条(届)	額新町2丁目124	こども園建替	11月24日	11月24日	1,388.74 ㎡	額新町遺跡	発掘調査
37	93条(届)	泉野出町4丁目1302~1306、1317~1321	店舗建設	1月14日	1月14日	2912.00 ㎡	泉野出町4丁目遺跡	発掘調査
38	93条(届)	藤江北1丁目30番、31番	店舗兼住宅の建設	1月17日	1月17日	215.00 ㎡	藤江B遺跡	工事立会
39	93条(届)	観法寺町い39-1、39-2、40	倉庫建設	1月20日	1月20日		観法寺遺跡	発掘調査
40	93条(届)	戸板1丁目128-3	個人住宅建設	1月26日	1月26日	69.07 ㎡	薬師堂遺跡	工事立会
41	93条(届)	木曳野2丁目121	個人住宅建設	1月27日	1月27日	371.91 ㎡	畝田・寺中遺跡	工事立会
42	93条(届)	大桑1丁目154	携帯電話基地局新設	1月27日	1月27日		大桑ジョウデン遺跡	工事立会
43	93条(届)	直江南2丁目74	個人住宅建設	1月28日	1月28日		直江北遺跡	工事立会
44	93条(届)	彦三町1丁目253-1	個人住宅建設	2月17日	2月17日	207.92 ㎡	金沢城下町遺跡	工事立会
45	93条(届)	観法寺町ろ77-10 外*筆	宅地造成	2月18日	2月18日		観法寺A遺跡	工事立会
46	93条(届)	直江町ホ219-3	個人住宅建設	2月28日	2月28日		直江ニシヤ遺跡	工事立会
47	93条(届)	新保本5丁目55番 外7筆	店舗建設	3月17日	3月17日	3,409. ㎡	新保本町東遺跡	発掘調査・ 工事立会

### 3. 教育・普及・啓発活動事業

#### (1) 金沢縄文ワールド

##### ① 概要

金沢市いなほ1丁目に所在する中屋サワ遺跡は、縄文時代晩期を主体とした多量かつ多様な土器や漆塗製品を含む木製品、石製品などが出土した遺跡である。特に漆塗製品は遺存状態が良好なものが多く、編みカゴを漆で塗り固めた籃胎漆器、漆塗りの装飾弓、腕輪、堅櫛など、多彩な遺物が出土しており、当時の漆工技術の実態がよく示されている。縄文土器には北陸地方の縄文時代晩期の形式をよく示すだけでなく他地域の影響が見られるものも含まれている。これらは北陸地方における縄文時代晩期の文化と生活様式を良く示しているとして、平成26年8月21日に重要文化財に指定された。

チカモリ遺跡は金沢市新保本5丁目に所在し、昭和50年代の発掘調査で環状木柱列と呼ばれる半截したクリ材を円形に立て並べた建造物が確認されたほか、計349点にも及ぶ木柱根が出土している。遺跡は中心部がチカモリ遺跡公園として整備され、昭和62年2月23日に国史跡に指定されたほか、出土した木柱根のうち57点が石川県指定文化財に指定されている。

金沢市では、これら縄文時代晩期の貴重な資料を適切に保管するとともに広く一般に展示・公開する施設として、金沢市埋蔵文化財センター内に「金沢縄文ワールド」を設置した。館内には常設展示コーナーと企画展示コーナーを設け、重要文化財「中屋サワ遺跡出土品」を主体に様々な視点から金沢市内の縄文時代を紹介する展示を行っているほか、2階には勾玉作りや縄文かご作りなどの各種古代体験に挑戦できる縄文体験コーナーを併設している。また、重要文化財指定物件を保管する特別収蔵庫を併設し、貴重な考古資料の保存継承を図っている。

所在地 石川県金沢市上安原南60番地 金沢市埋蔵文化財センター内  
 開館時間 9時30分から17時00分まで（入館は16時30分まで）  
 休館日 月曜日、年末年始（12/29～1/3）  
 ※月曜日が祝日の場合は開館し、その次の平日に休館  
 入館料 無料  
 入館者数

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度
入館者数	1,111	3,102	3,209	3,803	3,810	2,148	1,981

※平成27年度の開館：平成27年11月8日～平成28年3月31日

令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症に起因する臨時休館あり



## ② 常設展示

金沢縄文ワールドにおいて重要文化財「中屋サワ遺跡出土品」及び国史跡「チカモリ遺跡」出土品を常設展示するにあたり、貴重な考古資料を適切に保存管理しつつ、その魅力を広く公開するという基本理念のもと、以下のコンセプトによる展示を行っている。

1. 中屋サワ遺跡やチカモリ遺跡の出土品の特色及び独自性を演出する展示
2. 若年層から高齢者まで、幅広いニーズに対応できる演出
3. 「触れて、楽しみ、学ぶ」ことができる体験型展示手法の採用
4. 各種分析や実験考古学など最新の研究成果を反映した展示

これにメンテナンス性や環境への配慮を加えた結果、常設展示では「巨木の文化」「漆と装飾」の2大テーマに基づいた展示・解説を企画したほか、タッチパネルを操作して金沢市内の縄文遺跡や発掘調査の流れなどが検索できる「縄文の考古楽」コーナー、ゲームを通して縄文時代の石斧や弓の使い方を体験できる「実験考古学」コーナーを併設した。

### ■巨木の文化

展示室中央にシンボル展示としてチカモリ遺跡の環状木柱列を室内復元し、大型スクリーンの映像とともに往時の環境を再現している。また、中屋サワ遺跡から出土した豊富な木製品を展示し、縄文時代晩期の優れた木工技術を紹介している。



シンボル展示



常設展示「巨木の文化」

### ■漆と装飾

中屋サワ遺跡から出土した漆塗木製品や縄文土器を展示し、その高い技術と独自のデザイン性を通して、縄文時代晩期の金沢に住んだ人々が持っていたワザと美意識を紹介している。特に漆塗木製品は籃胎漆器や木胎漆器、弓、櫛、腕輪など多岐に渡る第一級の資料を展示しており、当該時期の金沢における優れた漆芸文化の一端を垣間見ることができる。



常設展「漆と装飾」



「縄文の考古楽」コーナー

### ③ 企画展示

企画展示コーナーでは、常設展示とは別に、毎回異なるテーマに基づいた展示を行い、金沢を中心とした北陸地方の遺跡と出土遺物を紹介している。令和3年度は新型コロナウイルス感染症まん延防止措置として令和3年5月12日から6月13日まで、及び令和3年7月31日から9月30日までを臨時休館としたため、当初年4回を予定していた企画展を3回に減じて開催した。

#### 企画展「学校の下の遺跡2」

会 期 令和3年7月10日～令和3年10月24日  
 概 要 金沢市立戸板小学校の新校舎建設に伴い発掘調査を行った「出雲じいさま遺跡」を紹介する企画展。出雲じいさま遺跡は古墳時代から平安時代にかけて栄えた遺跡で、発掘調査により古墳時代前期には玉作り集落であり、隣接する2遺跡の出土遺物とともに玉作り関連の遺構と遺物を紹介した。

展示資料 弥生時代：鉢 壺 高杯 絵画土器 革袋形土製品 戈状木製品 等  
 古墳時代：鉢 壺 高杯 器台 甕 勾玉 管玉 白玉 砥石 剝貫円盤 等  
 平安時代：須恵器、土師器、墨書土器 等

#### 企画展「金沢の縄文まとめてみた！」

会 期 令和3年10月30日～令和4年3月13日  
 概 要 金沢市内の縄文時代早期から晩期までの遺跡を紹介。縄文時代の早期や前期は標高の高い場所に遺跡が立地するのに比べ、中期以降は時代を経るに従って平野部に遺跡が広がっていく様子や、後期・晩期と時代を経るに従って平野部に遺跡が広がっていく様子や、気候の影響や文化の広がりによって出土品に変化が見られる様子などを遺物の展示から解説した。

展示資料 草創期・早期：有舌尖頭器（吉原七ツ塚遺跡）  
 矢柄研磨器（館山遺跡）  
 前期：深鉢、石器（上安原遺跡）  
 土器片、石製品（中戸遺跡）

- 中期 : 深鉢、浅鉢、石製品（北塚遺跡）  
 の字状石製品（三小牛ハバ遺跡）、  
 深鉢、編み物の圧痕が残る土器片、石製品（東市瀬遺跡）
- 後期 : 深鉢、土偶（米泉遺跡）  
 深鉢、注口土器、編み物の圧痕が残る土器（馬替遺跡）
- 晩期 : 深鉢（中屋サワ遺跡）  
 深鉢、鉢、骨角器、土偶、石製品（チカモリ遺跡）

### 企画展「石川中央都市圏考古資料展 ー縄文時代編ー」

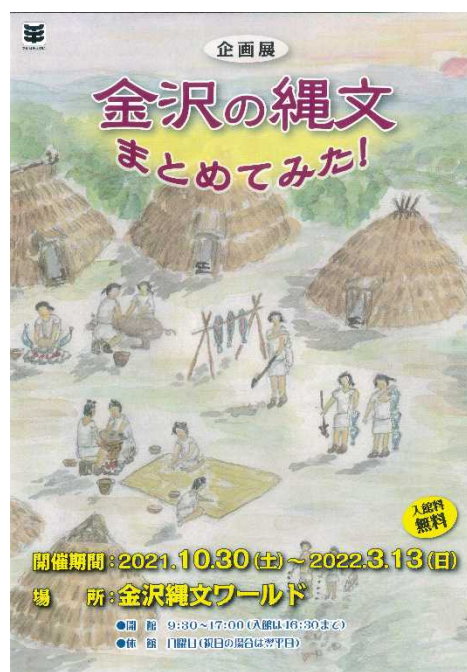
会 期 令和4年3月19日～令和4年6月12日

概 要 金沢市、白山市、かほく市、野々市市、津幡町、内灘町の4市2町で構成される石川中央都市圏には、日本海に面した海岸線や霊峰白山を始めとする山麓、手取川や河北潟に代表される河川湖沼などの豊かな自然を背景として、縄文時代から近世まで、数多くの遺跡が立地している。本企画展は石川中央都市圏が連携して開催する5回目の考古資料展で、各市町を代表する縄文時代の遺跡から出土した優品を厳選して公開。展示品は約1年間をかけて各市町を巡回。

- 展示遺跡 金沢市 近岡遺跡、畝田・寺中遺跡、古府遺跡、田上南遺跡  
 白山市 吉野ノミタニ遺跡、中奥・長竹遺跡、一塚遺跡  
 かほく市 上山田貝塚  
 野々市市 御経塚シンデン古墳群、御経塚遺跡、栗田遺跡  
 津幡町 北中条遺跡、能瀬石山古墳  
 内灘町 大根布砂丘遺跡、内灘砂丘



「学校の下の遺跡2」チラシ



「金沢の縄文まとめてみた!」チラシ



「石川中央都市圏考古資料展-縄文時代編-」チラシ

#### ④ 縄文文化体験コーナー

金沢市埋蔵文化財センター2 階の縄文体験コーナーでは様々な縄文体験を無料で実施している。体験メニューにはいつでも体験できる**通年メニュー**と、毎月内容が変わる**期間限定メニュー**の2種類があり、いずれも縄文時代の文化や生業を追体験できる内容となっていて、当館の体験型展示コンセプトの一翼を担っている。

令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止策として期間限定メニューを中止し、通年メニューのみの開催とした。また、政府による新型コロナウイルス対応のまん延防止等重点措置の適応対象に石川県が追加された下記の期間は縄文体験コーナーを休止した

令和3年5月12日から6月13日まで

令和3年7月31日から9月30日まで

令和4年1月27日から3月21日まで

<b>通年メニュー</b>	土器パズル	勾玉作り	古代衣装試着	拓本作り
	ペーパークラフト	ぬりえ	しおり作り	
<b>期間限定メニュー</b>	縄文かご・コースター作り	土偶作り	土笛作り	くみひも作り
	うでわ作り	はたおり		

※期間限定メニューの開催時期はホームページ等でご確認いただきたい。

※ペーパークラフトは金沢縄文ワールドのホームページでダウンロードできる。

<http://www4.city.kanazawa.lg.jp/11104/bunkazaimain/maizou/15.html>

利用実績	平成27年度	449人 (平成27年11月8日～平成28年3月31日)
	平成28年度	1,919人 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)
	平成29年度	2,140人 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)
	平成30年度	2,322人 (平成30年4月1日～平成31年3月31日)

令和元年度 2,393人（平成31年4月1日～令和2年3月31日）  
令和2年度 1,111人（令和2年4月1日～令和3年3月31日）  
令和3年度 988人（令和3年4月1日～令和4年3月31日）



勾玉作りの様子



しおり作り

勾玉作り

ペーパークラフト

### ⑤ 金沢縄文ワールド見学バス助成制度

金沢縄文ワールドでは、重要文化財「中屋サワ遺跡出土品」等の展示を通して本市の縄文遺跡の魅力を紹介している。また、併設する縄文体験コーナーでは、勾玉作りなど様々な縄文文化を無料で体験することができる。当館では、金沢縄文ワールドを初めとした本市及び近郊の縄文遺跡の見学・体験を希望する小学校や関連団体に対し、往復のバス使用料を助成する制度を実施しており、歴史学習や校外活動に活用されている。見学コースは下記の4コースを設定しており、申込団体が希望するコースを選択できる。見学バス助成は予算上10団体程度を募集しているが、助成に依らない団体見学は随時受け入れている。

#### ① 展示見学コース —金沢縄文ワールドの展示と館内の見学—

行 程 金沢縄文ワールド（展示見学、館内設備見学）

所要時間 約40分

#### ② 縄文文化体験コース —金沢縄文ワールド展示見学と縄文体験—



行 程 金沢縄文ワールド（展示見学、縄文体験（勾玉作り等））

所要時間 約 90 分

③ 縄文文化探訪コース －金沢縄文ワールド展示見学と近郊の縄文遺跡めぐり－

行 程 金沢縄文ワールド、御経塚遺跡公園、チカモリ遺跡公園

所要時間 約 120 分

④ 古代の里探訪コース －金沢縄文ワールド展示見学とふるさとの国史跡めぐり－

行 程 金沢縄文ワールド、上荒屋史跡公園、東大寺領横江荘遺跡荘家跡  
御経塚遺跡公園、チカモリ遺跡公園

所要時間 約 120 分

利用実績

	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R01 年度	R02 年度	R03 年度
団体数	5	7	9	6	7	2	4
人数	168	288	423	312	408	82	305



金沢縄文ワールドバス助成制度

## (2) 歴史ふれあい講座

当センターでは平成12年度より、職員が市内の小学校へ出向き、郷土の歴史と埋蔵文化財について小学校6年生に講義を行う「歴史ふれあい講座」を行っている。

講座内では縄文時代から古墳時代の歴史について学び、実際に遺物に触れる土器実見と勾玉作りの体験を行う。さらに現在の生活と文化財との接点を意識してもらえるよう、各小学校の校区内に所在する文化財や埋蔵文化財包蔵地を記した「文化財マップ」を配布し、校区内の遺跡から発掘された出土品を展示している。

平成22年度からは、金沢文化財ボランティア「うめばちの会」の協力のもと、公私協働で事業を行っている。令和3年度は4月21日の浅野町小学校から始まり、5月27日の夕日寺小学校に終わる12校で開催した。うち8校が勾玉作りを、4校が土器実見を行った。参加児童数は838名で、平成12年度からの累計は35,429名となった。

### 《過去5年間の事業実績》

実施年度	学校数	講座数	児童数
平成29年度	24	51	1,608
平成30年度	27	58	1,928
令和元年度	19	39	1,456
令和2年度	新型コロナウイルスにより中止		
令和3年度	12	26	838



勾玉作り体験の様子

### (3) 金沢子ども歴史探検隊

金沢市埋蔵文化財センターでは、将来を担う子どもたちを対象に、市内の史跡・建造物など実物の歴史遺産をフィールドとした歴史体感活動「金沢子ども歴史探検隊」を平成15年度より実施している。この活動は、ふるさとの歴史をより深く理解してもらうことで、地域と協働して貴重な歴史文化遺産を護っていく「金沢型の文化財保存活動」の実現をめざす環境を醸成することを目的としている。

第21回目となる令和3年度は、「チャレンジ！遺跡体験発掘R（リターンズ）」と題し、昨年度に引き続き南新保遺跡群での体験発掘を実施した。

南新保遺跡群は区画整理事業に伴い令和2年度から金沢市が発掘調査を実施しており、同3年度は事業地内の南新保C遺跡及び南新保ゴマヂマチ遺跡において発掘調査が行われた。体験発掘の会場となった南新保C遺跡は弥生時代から平安時代までの複合遺跡で、特に弥生～古墳時代の遺構と遺物に良好なものが含まれる。

体験発掘には親子28名の参加があり、発掘調査担当者が南新保遺跡群の概要と出土遺物を解説した後、屋外での発掘調査を体験した。調査は弥生～古墳時代の河川跡を中心に約2時間実施し、遺構からは当該期の土器や木製品が多数出土した。参加者の感想は概ね好評であり、埋蔵文化財への理解と親しみを深めるという当初の目的をほぼ達成する結果となった。今後も同様のイベントを継続して実施し、金沢の豊富な歴史文化遺産を次世代へと守り伝える環境の醸成に努めていきたい。

#### 《過去5年の事業実績》

実施年度	タイトル
平成29年度	「金沢子ども探検隊in松根城」
平成30年度	「金沢子ども探検隊in金沢城」
令和元年度	「金沢子ども探検隊in湯涌江戸村」
令和2年度	「チャレンジ！遺跡体験発掘」
令和3年度	「チャレンジ！遺跡体験発掘R」

#### 第21回金沢子ども歴史探検隊「チャレンジ！遺跡体験発掘R（リターンズ）」

開催日：令和3年10月23日（土）

内容：南新保遺跡群（南新保C遺跡）の見学と体験発掘

参加者：28名（小学生16名・保護者12名）



出土品の見学



体験発掘の様子

#### （４）市民ふるさと歴史研究会『いしかわの板碑文化を探る』

市民ふるさと歴史研究会は、金沢市内の発掘調査等による成果を市民に伝えることを目的として平成16年（2004）から実施している。令和3年度は石川県の中世の信仰を示す遺物の一つである「板碑」をテーマに講演会を開催した。講師は近年県内で板碑の調査を行っている野村将之氏（石川県立歴史博物館学芸員）。

板碑とは石製の供養塔であり、平板状の石材に種子（仏の名をあらわす梵字）を刻み、その多くは天辺を山形に加工して地上に建てる。関東地方では多くの板碑が地上に現存しているが、北陸地方では例が少ない。

講演は、まず板碑の研究史から始まり、講師が調査した県内各地の板碑について写真を用いて紹介し、その意義と今後の課題を解説した。

石川県での板碑の研究は大正11年（1922）から始まっており、昭和29・30年（1954・55）の「福野瀉周辺総合調査」により飛躍的に進み、現在までに約1,000例が調査されている。県内の最古例は羽咋市で発見された弘安2年（1279）の銘を持つもので、13世紀後半～14世紀前半ごろ能登地方に板碑を造立する文化が伝えられ、15世紀後半から16世紀には現在の金沢港周辺を含む加賀地方に伝播したと推測されている。形態からは畿内の影響がうかがえるが、記年銘のない板碑が多いこと、創建時の位置を保っているものがほとんどないこと、などが研究を進めるうえでの難点であるという。講演後の質疑応答や終了後のアンケート調査では、板碑というものを今回初めて知り興味を持った、金沢港周辺は県内でも板碑が多く発見されている地域であることに驚いた、などの感想が寄せられた。

なお、講演会は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、参加者数を会場の本来の定員の半分とするなど、まん延防止に充分配慮したうえで実施した。

#### 【概要】

実施日：令和3年11月6日（土）13:30～15:00

講師：野村将之氏（石川県立歴史博物館 学芸員）

会場：近江町交流プラザ

参加者：18名



当日の様子



講師による解説

## (5) 史跡活用事業

金沢市埋蔵文化財センターでは、史跡活用事業として、一般市民に郷土の歴史・文化と埋蔵文化財についての理解を深めてもらうことを目的に各種イベントを開催し、これらを通じて文化財愛護の精神を培う機会の創出を図っている。事業の対象者は小学生及びその保護者を主体としており、親子がふれあう機会を提供する場にもなっている。例年、チカモリ縄文まつりおよびチカモリ遺跡学習会、史跡フェスタみわを地元公民館と協働で開催しているが、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止を理由として各イベントが中止となったため、埋蔵文化財センターで古代鏡作りの体験を実施した。実施概要は以下のとおりである。

なお、開催にあたっては石川県史跡整備市町協議会から助成金をうけている。

### 【古代鏡作り体験】

鏡の原形は金沢市が発掘調査をした下安原遺跡出土の珠文鏡。シリコン製の鋳型に溶かした金属（錫とビスマスの合金、融点138℃）を流し込むことで珠文鏡のレプリカを鋳造する。市民が史跡に親しみ、郷土の歴史や埋蔵文化財に対する理解・興味を深めることを目的としている。実施にあたっては、金沢市文化財ボランティア「うめばちの会」の協力を得ている。



鏡作りの体験の様子

実施日：令和3年11月13日（土）

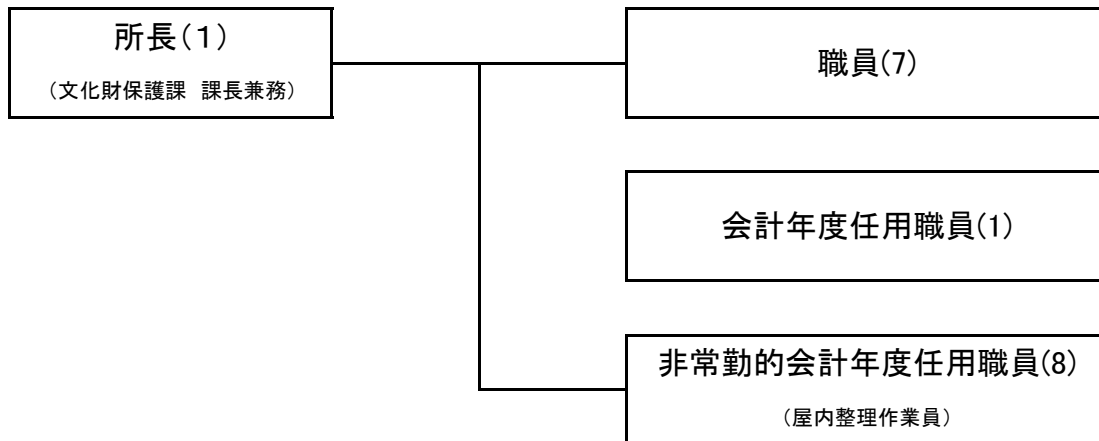
主な内容：鏡鋳造体験

参加者：21名

協力：金沢文化財ボランティア「うめばちの会」

## 4. 組織

令和4年3月31日現在



令和3年度  
金沢市埋蔵文化財発掘調査年報

令和4年3月31日発行

発行 金沢市

編集 金沢市埋蔵文化財センター

〒920-0374

石川県金沢市上安原南60番地

TEL:076(269)2451

FAX:076(269)2452

mail:maibun@city.kanazawa.lg.jp